

平成 29 年 度

# 行政懇談会記録書

～ 「働く女性」と市長との懇談会 ～

水 戸 市



# 目 次

|   |                          |   |
|---|--------------------------|---|
| 1 | 行政懇談会の概要・・・・・・・・・・・・・・・・ | 1 |
|---|--------------------------|---|

## 2 会議録

|     |                |                      |    |
|-----|----------------|----------------------|----|
| (1) | 第1回 女性経営者の部    | 平成29年11月1日(水)・・・・・・  | 3  |
| (2) | 第2回 企業等で働く女性の部 | 平成29年11月10日(金)・・・・・・ | 30 |



## 行政懇談会の概要

### ～「働く女性」と市長との懇談会

#### 1 目 的

働く場における女性活躍推進，ワーク・ライフ・バランスの実現に向け，「働く女性」と「行政」との情報交換の場を設ける。「女性の活躍を阻む要因は何か」「女性が活躍するためには何が必要か」等について，働く女性と市長とが和やかな雰囲気の中で懇談し，現場の声や意見を引き出すことにより，女性活躍推進に向けた全庁的な各施策に結びつけ，豊かで活力と魅力ある水戸市を築く。

#### 2 場 所

みと文化交流プラザ （五軒町1丁目）

#### 3 日 程

女性経営者の部・・・平成29年11月 1日（水）18：00 ～ 20：00

企業等で働く女性の部・・・平成29年11月10日（金）14：00 ～ 16：00

#### 4 コーディネーター

茨城大学人文社会科学部 せいやま 清山 れい 玲 教授

## 5 次第と出席者

|                                                | 次 第                                                                                                                               | 出 席 者                                                                                                                                                          |
|------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 女性<br>経<br>営<br>者<br>の<br>部                    | 1 趣旨説明<br>18:00～18:05 (5分間)<br>2 懇談<br>18:05～19:35 (90分間)<br>3 コーディネーター総括<br>19:35～19:45 (10分間)<br>4 市長 総括<br>19:45～20:00 (15分間)  | いけだ せいこ 様 憧れ 花のアトリエ<br>いそぎま じゅんこ 様 おむすびや 八助<br>こうじ ゆうこ 様 雑貨店 Aplaud o<br>ひやくたけ さちこ 様 百武特許事務所<br>ふじさわ りえ 様 社会福祉法人ユーアイ村<br>みうら あやか 様 株式会社ドロップ<br>たかはし やすし 様 水戸市長 |
| 企<br>業<br>等<br>で<br>働<br>く<br>女<br>性<br>の<br>部 | 1 趣旨説明<br>14:00～14:05 (5分間)<br>2 懇談<br>14:05～15:35 (90分間)<br>3 コーディネーター 総括<br>15:35～15:45 (10分間)<br>4 市長 総括<br>15:45～16:00 (15分間) | よしの のぞみ 様 株式会社ヴィオーラ<br>さいとう みか 様 株式会社フェリーク<br>氏名 非公表 株式会社茨城新聞社<br>しらい りえ 様 水戸市立幼稚園<br>なめかわ りな 様 日本政策金融公庫<br>たかはし やすし 様 水戸市長                                    |

## 平成 29 年度 第 1 回行政懇談会記録

### ○石塚男女平等参画課長

本日は御多用の中、「働く女性と市長との懇談会」女性経営者の部にお集まりくださいます。本当にありがとうございます。

今、働く女性が何に困っていて、本当に必要な施策は何か。「勘と経験と思い込み（KKO）」ではなく、きちんと根拠に基づいた政策を行っていききたい。また、アンケート調査だけではとらえきれない声を、直接市長に届け、施策に反映できるところは反映していききたいというのが、この懇談会の目的でございます。

この事業は、平成28年度策定いたしました「水戸市女性活躍推進計画」にも位置付けられておりまして、このように働く女性と市長とが直接懇談するというのは、初めての試みでございます。

本日は、水戸市ですでに活躍されております女性経営者 6 名にお集まりいただきました。

そして、より深く女性の置かれた状況を理解できるよう10日後の11月10日には、「企業等で働いている女性たち」にお集まりいただき、同じ目的で懇談会を開催する予定でございます。

ここで本日、コーディネーターをお願いしています、清山先生を御紹介いたします。

この懇談会をスムーズに進め活発な御意見をいただくため、労働経済や社会政策の専門家であります、茨城大学人文社会科学部教授の清山玲先生をお願いしております。清山先生は女性の就労問題に精通しておられ、シンポジウム等のコーディネーターの経験も豊富でいらっしゃいます。

ぜひとも、御出席をいただきました女性経営者の皆様には、自由で活発な御発言をお願いしたいと存じます。

そして本日は、水戸市から関係部署の課長等も同席いたしまして、御意見を伺わせていただきますので、御了承いただければと思います。

### ○コーディネーター（清山）

これからの進行90分に関しましては、私が自由にコーディネートしてよいということです。

さっそくですが、経営者として起業する前から、あるいは継承する前からの御苦労や御経験をお話いただきたいと思います。仕事と生活を両立する際にも、雇われて働いている人とは違う企業経営者ならではの困っていることや行政へのニーズもあるのではないかと思います。経営者として従業員のワーク・ライフ・バランスに気を遣わなければならないし、自分自身のワーク・ライフ・バランスについても大変でしょう。そういう観点を入れながら企業の経営者として水戸市に対して、常々思っていらっしゃることを忌たなく言ってよい場とお伺いしています。ぜひ、せっかく市長がお出でなので、高橋市長に伝わるようにでき

るだけ自分の言葉で具体的にお話いただけるといいなと思っています。よろしくお願いします。

最初に池田さんから順に、5分程度を目途にお話をさせていただきます。

#### ○パネラー

水戸市の見和で、「憧れ」という花のアトリエをやっております池田誠子です。よろしくお願いいたします。

1999年に起業したので、18年くらいになります。起業する時は、創業塾があることを知らなかったもので、その後、非常に苦労しました。18年続けるにあたって困ったことは、私の知識のなさで、今4歳の子どもが1歳になる年に保育園を4つ受けて軒並み落ちまして、大変だなということがありました。その後、入れたので良かったですけれども、子どもを預けるということに関しては、保育所に入れるかどうかで働けるか働けないかが決まるという人もおり、雇うこちらもすごく不安になるような状況であります。女性中心の職場ですので、若い方を雇うと出産がある、年配の方を雇うと介護がある、ということで、女性は辞めていく理由が男性よりもたくさんあるとは思っています。経営者として、何かこういうのがあったらいいなというのは、男性と女性は違うので、区別はする必要はあるのかなって感じがします。男性の長けている部分は、システムティックで、経営者として集まりとかに行くと、すごく会社を経営するのが上手だったり、女性はどちらかというと、私が会った経験上では、思いつきで経営、行動をされている方が結構多かったです。でも、ソフトな感じで新しい考えを持っていたり、気づきの点では女性のほうが長けていると思います。経営するにあたっては、男性のサポートがあるとすごくいいなとは思っています。

女性について特に必要なんじゃないかと思う点については、女性としての生き方プランみたいなのを考える機会がすごく大事だと思っています。この間、大学でもライフプランの授業があったかと思うんですけど、女性は妊娠して出産すると1年間くらい働けないことになったり、特に肉体労働の花屋だと働けないことになったり、休まなければならない時期とかもある。性教育を小学校の何年生かで少し受けて、その後、実は妊娠したという時まで分からないことがある。18歳や19歳とかで妊娠して出産すると、働いていないので金銭的にも難しい。経済的にも成り立っていない家庭の中でいろんな渦に巻き込まれて、貧困とか育児放棄とか、虐待とかいろんな問題につながっていくのではないかというのがあって、女性ならではのライフプランについて、もう少し教育において何かするといいのかなと思います。

#### ○コーディネーター

ありがとうございました。

それでは続きまして、磯崎さんお願いします。

#### ○パネラー

南町で「おむすびや八助」を経営しております磯崎純子と申します。よろしくお願いします。

事業を始めたのは、平成16年からでだいたい13年、足かけ14年くらいになります。おむすびとかお弁当、それからスープなどを取り扱っております。女性の経営者として、あまり困ったことはないですが、この機会に考えてみるとパートさんの中で、子どもがいる方は特に幼稚園くらいまでは頻繁に病気になり、そういう時に、病児保育の受け皿がなく休まれてしまう。これが一番困りました。次に、交通のことですが、店のある南町3丁目の区画はすごく長く、横断歩道が南町3丁目の両端にあるものの、その間をみんな横切ってしまう。商店街が北と南にあり、大通りを横切って渡って交通事故に遭う人が多いです。これはお客様からのお願いでもありますが、何とか横断歩道ができればいいと思います。あと、太田街道と国道50号の交差点のところは信号がコの字型になっていて、渡るのに1回、2回って待たなければいけない。あそこを、スクランブル交差点にすれば人の交流が活発になるのではないかなと思います。

#### ○コーディネーター

今の御意見は、市民の動線に合わせてまちづくりをすることが、人の交流を促進すると理解しました。一地域だけではなくて地域ごとに、例えばスクランブルにしたほうが効率的だとか、危険がないだとかいうのは、まちづくりの観点としてあるので、それを市民の要望を吸い上げる場をつくって見直して欲しいというふうに理解してよろしいでしょうか。

#### ○パネラー

はい。ありがとうございました。

#### ○コーディネーター

それでは、小路さんお願いします。

#### ○パネラー

今日は、よろしくお願いいたします。

こちらの会場から近く、13年前にハンドメイドの小物雑貨の店を開業いたしました。お店の名前はA p l a u d oといいます。それは図書館で本を見ていて「拍手喝采」という意味がエスペラント語にあるそうで、そういう思いを会おう方や作家さんに伝えていきたいと思ったことを思い出しました。今日身に付けているものは、靴以外は私のお店に作品を置いてくださっている作家さんの手作りの物で、バレッタ、指輪、ブレスレット、刺繍とかブローチ、洋服、駿（げん）担ぎでこれらを身に付けて参った次第であります。

自己紹介をさせていただきます。実際店がある通りというのは結構厳しいのです。日曜日になると本当にまばらで閑散としてしまいます。平日とか土曜日のほうが、交通量があるまちなかで2005年に開業したのですが、その翌年くらいには大手百貨店が撤退してしまいました。その後また2年程で内原に大型施設ができて、そうした波にあってきました。裏通りに開業した訳は、とにかく家賃が安かったからということです。すぐ近くには開業30年、40年の美容室とか電気屋さんとか、それに同年代の女性の私の憧れである八助さんが1年前に開業されて、今お客様が外までいつも並んでいて、おむすびを買う時には走っていかないとならない、憧れの方もいるので、そういうところでは、まちなかに開業した利点かなと思

います。個人個人の繋がりに助けられています。

10坪くらいの小さいお店ですけれども、素人の作家さんや趣味で作っている素敵な物を少しでも紹介したいと思ってスタートしたのですが、なかなかお客さんに来てもらうということが大変でした。オープンしたのは勢いだったけれども、3か月くらいたったら、お客さんが誰も来なくて、家賃が払えないという状況で、もう寒気がしてきました。そんな時に、松下幸之助さんの本を読んで、「一番辛いことは暇に耐えることだ」という言葉が骨身にしみました。そういう訳で最近では、お米とかも売っておりまして何でも売っておりますというお店になってしまいました。

自分自身は、前職で経理の仕事を少しやっていました。簿記の資格二級を持っており、それを生かせそうだと思ったのも、お店をやろうと思った理由の一つです。ほかにもたくさん理由があったかもしれないです。開業した時は何にも物が無かったです。何をやっているスペースだろうって感じで、ようやく20人くらいの作家さんたちを、電話帳とかカルチャーセンターなどにいきなり行って探しました。茨城県の中小企業振興公社さんで、事業計画が必要だよと言われて一緒に1か月くらいで作って、それを、国民生活金融公庫さんのところに行って300万円くらい融資を受けて開業いたしました。開業資金の助成とか家賃の補助を、3年ほど水戸市の商工課に申請させていただいて手厚くしていただいたことは、すごく助かりました。

また、1階のお店が手狭になったものですから、2009年に同じ建物の2階を借りて、ギャラリースペースを開業し、ワークショップやコンサートなどをやっております。市長さんへの要望は実はあまりないです。それで今日、お店に来るお客さんに聞いてみたのです。こんな機会はないのでどうですかって、そしたら結構出てきたので、この場でお話しさせていただいてよろしいでしょうか。

少しずれてしまうかもしれませんが、一番は原発の問題でした。再稼働するのがとても心配で、その方は那珂市の方だったのですけれども、避難するときは県西に行くっていうのは聞いているのですが、逃げ方とかルートが分かっていないから、そういう時にどうするのか、漠然とした不安があるということです。それから先ほど、池田さんから保育所の話がありましたが、将来保育料が無料になるかもしれないという話があるんですね。

#### ○高橋市長

消費税を10%まで上げた財源でやるという、政権の公約ですよ。まさに昨日の会議でも周知しておくように指示したところです。どのタイミングで行うのか、国の動向を注視しておくように指示したところです。

#### ○パネラー

今日、孫がいる女性がお店に来まして、保育料が無料っていうのは聞こえがいいけれども、保育園に入れなくて待っている人たちにとってはどうなのか。みんなが入れればいいけれど、入れない人にとっては、非常に不公平なんじゃないかというシビアな意見がありました。

## ○コーディネーター

ありがとうございました。多岐にわたって話しして下さいありがとうございます。

では、次にいきましょう。百武さんお願いします。

## ○パネラー

百武特許事務所の百武と申します。今日はよろしくお願いいたします。

この会に参加していいのかなと思うくらい、私は従業員を雇うということではなくて、ひとりでやっております。

まず簡単に自己紹介をしますと、今から7年前、2010年に水戸に引っ越してきました。その前は大阪に4年間住んでいました。その前はアメリカのサンタバーバラというところに1年半住んでいて、その前は京都に住んでいました。子どもは上の子が中学3年生で、下の子が小学1年生です。4か所で子育てを経験しております。保育園の印象は水戸が一番いいです。たまたま入った保育園がわかな保育園だったんですけども、今まで入った中で非常に良かったので、水戸で子育てをして良かったなと思っています。子育て環境としては、非常に恵まれていると思います。ただ、今回の趣旨からは、ずれてしまいましたが、住宅街の真ん中に公園があるといいなと思います。私の住んでいるところが水戸市の大町ですが、周りに公園がなく車で行かないと遊べないので、そのあたりだけ少し他の所が良かったなと思っています。

起業する前は別の事務所で2年働いて、それから独立しました。その前は大阪で大学の教員だったので、全く違う職業に入った訳です。大阪の頃は自分が好きなように仕事ができ、非常に働きやすかったのですが、水戸に来て、全く業種が違うことと、やはり女性はまずは事務をしなきゃダメだよと。最初の頃は、弁理士としての仕事より、事務をするということに重点を置かれ、なかなか女性が受け入れてもらうには難しいと思い、独立しました。今は産業会館で月に1回発明相談を受けたり、個人的に企業や個人様から仕事をいただいております。仕事上、困ったことは、例えば企業に行って男性と1対1で誰もいないところで仕事の相談をするというのが、やりづらいなと思っているところです。できるだけ1対1にならないような環境にしたいなと思っているところです。開業して4年経ちますが良かったのは、ワーク・ライフ・バランスが保てるところが一番大きいと思います。今、下の子は小学1年生で、やはり保育園のときは風邪をひいたりすることが多いのに、実家は夫婦両方とも遠いので、面倒をみってくれる人がいません。ファミリーサポートを利用すれば良いという話になりますが、ファミリーサポートは全く顔が見えない、どんな方なのかというのが分からないので、なんとなく怖いというのがあります。大阪にいた時に、1回ファミリーサポートをお願いし、たまたまだったのか、とても怖い家だったんです。子どもが3歳くらいだったんですけど、布団は敷きっぱなし、私が行ってもずっとニラを切っているような家中ニラだらけで、引きこもりの30代の男性の人がいて、お母さんは忙しいから、その引きこもりの男性の方が面倒見るから、布団が敷きっぱなしの部屋で「そこで勝手に遊んでて」みたいな感じだったので、預けるのが怖くなってしまいました。ファミリーサポートに登録はして

いますが、やはり利用するのが怖い。もちろん全てがそういう家ではないと思いますが、実家が遠いとなると、何かあった時に頼る場所として、目に見える形でファミリーサポートがどんな人がやっているのかが分かるようであればお願いしやすいと思います。そういう公的機関のサポートがもう少し分かりやすく、外れがないようにしてほしいと思っています。皆さんに聞きたいのが起業して良かったこと、後で教えていただけたらと思います。私にとっては、ワーク・ライフ・バランスを保てることが一番大きいところです。

### ○コーディネーター

参考までに、ファミリーサポートでも拒否権はあります。子どもと相性が良くないとか、そういう場合は2度目をお願いせず、ほかの人をお願いしますと言えるし、実際、水戸市内でファミリーサポートをお願いしている人たちも良い関係を築いて、サポートしてもらっている人たちもいると思います。私はつくば市でしたが、ファミリーサポートに助けってもらわずには仕事は続けられませんでした。待機児童の時に、3、4人態勢で乗り切りました。ただ、どんな人か分からないという不安に、ファミリーサポートを安心して利用してもらって大丈夫ですということを伝える。その根拠になることは、情報として提供することが必要だと思うのです。誰でも家の中に入って、子どもと二人だけの空間になるのですから、やはり誰でも良い訳ではない。百武さんの御心配は理解できます。

今度は、公的なところで保育所を経営して、また介護施設も、特に保育と介護とどちらも不足している業界での経営者でいらっしゃいます、藤澤さんお願いします。

### ○パネラー

社会福祉法人ユーアイ村の藤澤です。よろしくお願いします。

10月29日は大雨の中を、水戸黄門漫遊マラソンのフルマラソンに出場いたしまして、ギリギリの5時間58分でゴールできたという、散々な記録を残してしまいました。

簡単に自己紹介させていただくと、親が福祉の仕事をしていたのでそれを継いでやっているところです。大学は福祉学科を卒業しまして、松下政経塾というところに入って福祉を政策から変えようということでそこに入ったのですが、政治の世界は厳しいと、一番初めに選挙の応援に行った高市早苗さんの事務所で、政治家になるってことは非常に大変だということ、政治家の道はすぐ断念してしまったという経験があります。その後にドイツに留学をしまして、ベルリン工科大学というところに入って勉強したのですが、そこで、ここにいる池田さんとベルリンでお目にかかって、何と私が住んでいたアパートのその後に入られた人ということで、ベルリンで会って、それでまた水戸で会うという、何て世界は狭いのだというのを非常に強く思っているところです。

市政に一番心からお願いしたいことは、下水道を通して欲しいということです。今まで何回もあの地区はダメだって、市長から言われています。

さて、保育園をつくった理由の一つとしては、介護職員の確保というところが大きくあります。保育園に預けて働き続けることもできますし、預けた方が新しく介護職員になってくれる、あるいはそのまま保育士さんになってくれるということで、とても有効でした。とい

うことで保育園をつくったことはとても良かったと思っています。

今日は、保育園や介護施設をやってみて、市政に関連することで、3つお話ししたいと思います。

まず1つは、保育園のことについてですが、お仕事が休みの日にも保育園に預けていいのではないかとこのころです。リフレッシュ目的で保育園に預けるとというのが、私は個人的にはあってもいいと思うのです。基本的には、保育園というのは、親が就労の日に預けるところでも実際には、母親がお休みの日には、大抵母親は保育園を休んで自分で子どもをみるけども、父親が休みの日には預けるのです。父親は、明らかに今日は休日という格好で、保育園に預けにくるのです。そうすると保育士さんたちが、「絶対あのお父さん今日休みだよね」「休みなのに預けていいんですか」ってことを言いにくる訳です。「いいじゃないか」と、「お休みの日に面倒を見るのが大変だから、見てあげればいいじゃない」と言うのですけれども、でも基本は違いますよねっていうことがある。そこで何が問題として起こってくるかというと、同じ法人の中で、介護施設で働いている人が、うちの保育園に預けているんです。そうすると、勤務状況が分かってしまう訳だから、あの人休みよねっていうのが分かってしまうのです。そうすると休みの日に預けられないから、別の保育園にうちの職員が子どもを預けるのです。そういうこともあって保育士さんの中にも、社会一般的にリフレッシュ目的だったり、休みの日も時間限定だったり預けていいじゃないか、働くお母さんだってやっぱり休みほしいよねという共通理解が、うちの保育園だけでなく、社会全般的にないとなかなか難しいのかなと思っています。

もう一つ子育て支援拠点という、働くお母さんではなくて、子育てを専門にしているお母さんが集まる場をやっています。やってみて思ったのは、今、保育園の中でやっているのですけれども、子育て支援拠点というのは、保育園の中でやる事業ではないということです。保育園の子どもたちは、親から離れて一生懸命頑張っている訳です。そこに隣のお部屋にお母さんと一緒に子どもが遊びに来て、そこで楽しそうに遊んでいる一方で、保育園で一生懸命頑張っている子たち、2歳、3歳で、うるうるしながら親から離れて、でも頑張っている。ですので、どちらかというと、例えば、スターバックスの隣にあるとか、図書館の脇にあるとか、人が集まる所のすぐ近くにあるようなところのほうが、子育て支援拠点というのは良かったと思っています。

それから介護・保育・障害福祉、この3つの事業をやって、今、私が一番やりたいと思っているのは、まるごと支援です。ワンストップで介護のことも、育児のことも、子育てのことも、障害のことも、そういったものが全部同じ場所で相談できて、そのためには、それができるスタッフを育成しないと行かないです。保育のことは分かるけど、障害のこと全然分からないとか、介護は分かるけれども、保育は分からないというのではなく、その支援者として、全ての分野にまるごと相談できるような体制と法人としての体制と、そういったスタッフを育てる、そのあたりが今の課題でそういった場所を水戸市の中でつくっていききたいと思っています。

## ○コーディネーター

ありがとうございました。

今の御意見はすごく大事です。保育園に子どもを毎日預けている場合、毎日保育園に行く訳です。病気になったら、その保育園の看護師さんに聞きます。下痢をしていたら栄養士さんに食事指導を受けられます。同じように発達障害などがあった場合に、あるいは、アトピー性皮膚炎とかで、私の子もすごい重度だったのですけれども、そういう時に、そこにいらっしゃる看護師さんがケアの仕方などをサポートしてくださいました。毎日シーツが血だらけになる重度のアトピーの子たちを今までいくらか見てきたけれども、「いずれ軽くなっていったよ」という情報一つで親の気持ちが軽くなる訳です。こうした子どもに関わる相談をワンストップでやるっていうのは今、いろいろな保育園で試みていらっしゃるのと思います。県の研修の時にも、ものすごくニーズがあったとお聞きしています。やはりみんながそういう支援を求めているし、保育所の方でも、そういうことに対して応えられるようになりたいと思ってらっしゃると思います。この件はここでのコメントとさせていただきます。では次に、三浦さんお願いします。

## ○パネラー

株式会社ドロップの代表取締役を務めております、三浦綾佳と申します。

私は広島県出身で、広島で販売業・イベント業などをやっておりました。そんな中で今の夫と出会って、夫は大手の広告代理店に勤めていまして、一緒に東京に引っ越して、一緒に広告代理店を立ち上げたのが、今の株式会社ドロップです。なぜそこから農業にという話ですけれども、全然ジャンルが違いますが、代理店時代に、内閣府の男女平等参画の広報誌の仕事や、農業に関しては、富士通さんのICTであるとか、そういう仕事をやらせていただく中で、ちょうど私の妊娠出産が、代理店時代にあったのです。代理店の仕事は、やはり徹夜が当たり前とか、残業ゼロとか言われている中でも、どうしても抱えてしまう仕事量が大変多くて、こなさないとクライアントに提出ができないとか、締切りが非常にシビアな部分があり、このままだと、おそらくどこかで、キャリアを諦めなければならないんだろうなと思って。じゃあ自分がこれから子育てをしながら、キャリアアップを諦めずに活躍していける分野は何なのだろうと考えた時に、飲食店なのか、農業なのか、いろいろ候補がありまして、その中で、テレビで見たアイメックという少し変わった農法が、見える化がされていて、農業って今まで経験ということが非常に言われていた中で、比較的短期の1年でも習得ができる農業、しかも品質のいい物ができるということは、農業＝低所得という概念ではなくて、きちんとブランド化ができて高く売れる農業、つまり稼げる農業ができるのではないかという思いに至りました。これはやってみたいなど、若さの勢いも、もしかしたらあるのかも知れませんが、そこで完全に未経験の、農業学校出身でもない、農家出身でもない私が、農業に一步踏み出したのは、それがきっかけです。

現在、農地を水戸に構えた理由は、単純に農地を見て、いろいろな県の農地を見たのですけれども、こんなにまとまっていい農地があるのかと思える農地に水戸で出会えたというこ

とが水戸での就農の経緯です。もちろん夫の生まれが水戸で、その関連での農地でもあり、ここでビジネスをやっていききたい、農業できちんと稼げるビジネスをやっていききたい、という思いで起業をいたしました。

今、3年目に入りました。まだまだ新人経営者ですが、自分が働きやすい職場を作りたいという思いがもともとベースにあります。今、正社員が2名、パートさんが5名、計7名を雇用していますが、やはり継続性、就農してからの継続性が大事というのは、やはり技術職のようなところがあって、1回教えて、それをきちんと習得したところで辞めてしまわれては、会社としても困るのです。だったらずっと長く働ける職場、働きたいと思える職場にしようと、ワーク・ライフ・バランスの実現を目指そうと思いました。言っている所はたくさんあるんですけど、それが実際に実行できているのかというところに視点をおきました。ただ農業は、作業が終わらないと帰れないというイメージがある中で、最初は確かに残業をしてもらわないと回っていかない部分もあったのです。でも作業スケジュールをきちんと整えることで、そこは解消していく。生産性ということの一つテーマにして、使っている人材に対してどれだけの仕事ができているか、これによってきちんと生産スケジュールを整えることで、2年目からは残業ゼロ、フレックスタイム制の導入、5日間の夏休みを実現しました。社会保険についても、農業だと保険が整備されていないということも現実にあります。それでは人は来ないだろう、人が集まる農業ってなんだろうということで整備し、一般企業と変わらないような働き方ができる農業を目指してきました。最初はこれで本当に人が来るのか、農業だし汚いイメージもきっとあるし、来るのかなと思っていたけれども、面接でたくさん落とさないといけない程の応募が、ハローワークに出ただけで来るようになったのです。実際、ありがたいことにたくさん応募いただいております。その応募理由を聞くと、農業だから来た訳ではなく、女性がずっと働ける職場だから来たという方が多いです。すると必然的に子育て中のママばかりになってしまったのです。限定している訳ではないのですが、今、実際に働いているのは、8割方子育て中のママです。男性も、もちろん募集しているにも関わらず、やはりそういった理由で応募されている方が非常に多くて、ということは、きっと女性が活躍できる職場は水戸市内にいっぱいあるはずなのに、それが働きたいママたちに伝わっていないのかなという印象が少しあって、それは残念だと感じています。

保育園の入所ができてこそ働ける職場というのが、弊社の課題でもあるのですが、保育園に入所する際に、私自身がその入所したい保育園に対して、最後の一枠だったのです。本当に入れるのかと大変不安になりながら書類を書いて、きっとただの書類では通らないと思います、プレゼン資料も全部作って提出しました。働くために必死です。その時に窓口で言われた一言にすごく傷ついたので。「農業だと優先順位が少し低いです」というふうに言われたのです。確かにこれまで農業は、家族経営がメインで、おじいちゃんやおばあちゃんに面倒を見てもらえるでしょという概念で、どうしても見られがちですが、弊社みたいに株式会社にして就業時間を定めて、一般企業と変わらないような働き方をしている者に対して順

位が低いと言われましても、正直ショックを受けたというのが事実でございます。今お蔭様でいろいろなメディアにも取り上げていただき、相談に来られる就農者が非常に増えております。水戸市や水戸市の近郊で起業したい、農業で起業したいという方が多いのですけれども、やはり販路、生産するにあたり、生産したものをどこに売っていいのかということで、皆さん迷われています。弊社の場合は、ブランディングとかマーケティングが元々の仕事だったので、高く売るための方法が比較的分かっているので、直接販売ができていますのですが、それが新規就農者には難しいのです。それをどこで教えてもらえるのか分からないという相談を受けまして、それが水戸市なりに紹介してあげるとか、何か指導ができるようなワンストップなアドバイスがあると、もう少し継続性も含めた就農者が増えていくのではないかと感じております。

#### ○コーディネーター

はい、ありがとうございました。

後半にいくにつれて口が滑らかになって、トップバッターは少し損をしていますね。後で多めにお話してくださいね。

それでは今、たくさん話題が出てきたと思うのですが、創業するにあたって、必ず聞いて欲しいという質問です。創業するあるいは事業を継続するにあたって、特に女性だから困ったこと、女性だから嫌な思いをしたのではないかという想定がある訳ですけど、それはございましたでしょうか。無ければ無いでもいいし、やはりこれは少し困ったということがあれば、具体的に教えていただけたらうれしいです。どなたでも、まず女性だから困ったという経験をしたという方、手を挙げていただいていいですか。

#### ○パネラー

私の場合お米を販売しており、30kgのお米をコイン精米所で精米して売っております。やはり力仕事ははかどらないということがあります。また飛躍してしまうかもしれないですが、何か型にはまらない、いろいろな生き方を見つけようとしたり、いろいろな家族っていうもののイメージが変わりつつある中で、いまだに古風な考え方の人もいます。

#### ○コーディネーター

困る案件として、どのような考え方がお困りだったのでしょうか。

#### ○パネラー

例えば、女性なのに自分でお店をやっていて家族はどうしているのかとか、そういうような立ち入ったことを聞かれることがあります。

#### ○コーディネーター

軽く言われる分には軽く流していればいいのですが、なかには少し気になるくらい、何度も何度もおっしゃる方もいらっしゃるということですかね。

#### ○パネラー

男性の場合は例えば、自宅を事務所とする方が結構多いです。私も開業した当時は、自分のマンションを事務所としていましたが、やはりマンションに来られるのが嫌なんです。入

れたくない。男性でも嫌な方は嫌だとは思いますが、それでも男性だったら、もう少し楽だったのかなというのがあります。

### ○コーディネーター

はい、場所の設定ですね。打合せとか、いろいろな相談を受ける時の場が、自宅の一室であるという孤立した空間ということに対して抵抗感があるので、公のそういう空間が、そういう意味ではワグテイルとか、あるいはいろんな地域の喫茶店とか、相談をしやすいような場というのが、しかるべきところでそれなりにあるといいということですね。

### ○パネラー

先ほど言いましたが、保育所に初めて申請した時に、私、群馬県出身で親は群馬にいますし、夫は広島出身で親は介護施設にいますし、親戚一同水戸市内に誰もいないのです。3か所の保育所に申込みをしましたが、全部落ちてしまいました。職場に連れて行くのは、絶対に無理ということになり、無認可の保育園に入れました。保育園に受かる、受からないという基準は何だろうと思うのですが、それは明確にはできないですか。

### ○コーディネーター

保育に関しては、後でまとめてやっていいでしょうか。今大事なことでもあるし、みんな落ちた経験があったり、あるいは従業員が入れなくて待っている状態で、人を集めるのがどんどん難しくなっていますね。求人難なのに、せっかく来てもらった方が保育所に入れなくて困っているということだと思うのです。そこを後でまとめてやりたいと思います。

今直接、創業で女性だから困っているという案件はお二方から言われたのですが、力仕事の部分は人を雇うか、あるいは小口に分けるということ。運輸の現場では、女性でもできるように工夫をしたり、スーパーでも重い物を女性が持てないので、以前に比べると、一つ一つの箱が小さくなっていたりするのです。だから女性でも持てるとか、台車の工夫とか、機械に頼らないといけない部分もあると思うのですけれど、皆さん同じような共通のことがありますよね。働き方改革の生産性の向上の一環ですね。具体的に機械をどうやって利用するかとかもあると思うので、共有できたらいいなと思います。

はい。それで女性だから困っている訳ではないけれども、経営者、企業経営をするにあたってお困りのことっていうのを今までだいたい出ていると思いつつ、保育についてはまとめてワーク・ライフ・バランスとしてやらせていただきます。

一つは、皆さんに書いていただいたところによれば、創業するにあたって相談の場とか、まず学びたいというのがありました。基礎的なものが欠けたまま創業してしまい、苦労した方もいれば、起業しようとしているところで、たまたま非常に信頼できるアドバイザーに出会えたために、無駄にお金を失うこともなく、その事業をすることができた方もいる。制度や金融も含め、さまざまな知識を学ぶ制度、システムティックに学べる場が欲しいということです。それが有効であることを事前アンケートでお書きになった池田さん、ほかの方も、専門家のアドバイスが重要であると書かれていたのですけれど、どこへ行けば専門家に会えるのか、あるいは信頼できる相談相手というのを、特に起業された方たちはどうやって

見つけられたかのかというのを教えてください。

#### ○パネラー

私は起業する時に、お金を借りるにあたって自治金融を借りたので、商工会議所に行ったから青年部に入らないかと誘われて青年部に入りました。商工会議所さんにはすごくお世話になり、無料相談も何度も受け、そこで中小企業振興公社さんを紹介していただきました。そして専門家のアドバイスを受けたり、助成金を取らせていただいたりしています。創業支援の講座があることを今は知っていますが、当時は何も知らなかったもので、創業とか起業するのだったら、まずこの講座を受けなさい、みんな起業しようと思ったらあそこに行くよねというのがあると、私みたいな無駄な苦勞をせず、みんなスムーズに育っていくのではないかと思います。

#### ○コーディネーター

もし起業する人たち向けの、例えば、市のサイトや広報、起業する方たち向けのアクセスすべきURLが書いてあったり、その情報の窓口があれば、そこから支援塾みたいなものを紹介されるだけでも違いますか。

#### ○パネラー

広くみんなが知っている。起業しない人でも知っているようなものです。

#### ○コーディネーター

そこが結構難しい。実は、市民に情報を、とにかくみんなが知るっていう状態にするために、市はものすごく苦勞されていると思うのです。どの媒体を使ったらいいのか。サイトに入れているからいいかというと、サイトにアクセスがなかなか来ないし、広報を見ってくれるかというとなかなか広報も見えてくれない。口コミというのが馬鹿にならない部分もあるけれど、そういう人たちが集える場はあるのか。もし、そういうことに関するアイデアがあれば、ぜひ出してください。市のこれからの情報提供の仕方について、市民目線でどのように出したら届くのか、よかったら後ででも、今でもいつでもおっしゃってください。

#### ○パネラー

LINEとかSNSとか。

#### ○コーディネーター

そうですね。LINEとか、そういうのを結構使うのかなと思いますけれど、SNSだとかね。

#### ○パネラー

私の場合は、前職が税理士事務所で働いていたので、そこで、先生にいろいろアドバイスを受けて、お店を出店する場所とか、資金繰りのこととか、そういうことをいろいろ教えてもらったのです。そのため、あまり苦勞することなく、スムーズに起業できたという感じはします。しかし職業が全く違う畑違いの仕事だったので、その点では、すごく苦勞して、3か月、4か月くらいは、午前2時くらいまで毎日働いていました。でも、こういう苦勞は仕方がない面がありますが、やはりお金の苦勞、それからアドバイザーがいない苦勞、これは

やはり一番困ると思います。例えば、税理士事務所とかで働いていたOBの人とか、そういう方が、市などに登録して相談を受けられるとかいうことがあったらいいと思います。

#### ○コーディネーター

ありがとうございます。やはり相談できる人、信頼できる人を見つけることが必要であるということ、藤澤さんも書いていらした。そのためのネットワークということも、書いていた方もいらっしゃると思います。ネットワークをつくるための場の設定ということで、市に希望するようなことはありますか。もし、ほかの方も何かあればおっしゃってください。

#### ○パネラー

ネットワークを作るために、市に希望するという事ではないです。運だったり縁だったりもあると思うのです。自分で振り返ってみて一番良かったと思うのは、会計事務所のうちの担当者と出会えたことと、それからデザイナーと一緒に仕事できたことはとてもありがたかったと思います。会計事務所の方は、財政的なこととか、非常にクールに指導してくれて、それはとても冷静な目になって良かったと思っています。デザイナーというのは、ただ単に、チラシを作ってくれるとか、看板を作ってくれるとか、ウェブサイトを作ってくれるとか、そういう意味のデザイナーではなく、頭の中の整理をして、いらないものを捨てて、これだけは必要だっていうものにフォーカスしてくれるとか、そういう意味で経営者にとってデザイナーは、パートナーだと私は思っています。経営者にビジョンが必要だ、そのビジョンを描く時に、デザイナーに助けてもらってビジョンを描いて、この目的に向かってやっていくことに対して、スタッフについて来てもらわないといけない。従業員が220人いますが、そういう大勢の人を一つの方向に導いていく時に、そういう手法というのが非常に重要で、自分ひとりの力では難しかったし、これから先も難しいだろうと思っています。

#### ○コーディネーター

ありがとうございます。今の話は、女性ならではの事ではないけれども、企業を経営していく上でとても大事なことです。先ほど三浦さんがおっしゃったこととも関係しますが、三浦さん自身がある種、ブランディングデザイナー的な要素を持っていらっしゃるの、マーケティングも含めて戦略を立てるということ、ほかの方たちよりも少し優位にできたのかなという話がありました。通常は自分が広告会社に勤めている訳でもないのに、何となくいろいろなものを見て、これがいいなと思うものはあるけれども、プロフェッショナルではない。プロを相手に自分がやりたいこと、こうしたらいいんじゃないかと思うことを、絵にしてもらうという作業をする相手にめぐり合うことが大切だということでしょうか。ここにいらっしゃる方は違いますが、茨城県というのはブランディングが下手なところかと。おいしい物とか、いい物は、お酒も含めていっぱいあるのに、全国ブランドにするのが下手。それを、稼げる農業にしたところも、茨城県、全国のリーダーになってもらえると思います。いい物を見つけ出して、これはこんなに素敵なんだ、自分のところは安心できるでしょ、っていうものを、みんなに素敵と思わせる力というものもあると思います。今日のお花も池田さんの所のようにすけれど、そのサイトで、どうやってみんなが魅力的だと思っ

て、そのサイトからアクセスしてリースをつくるとか、お花の講座に行くとか、引っ張ってこなくちゃいけない。そういうことができるそういう力のあるサイトなのか、全く引っ張ってこられないサイトなのかというのはまるで違うんですね。1回クリックしてもらった時に、その1回でお客さんを逃さない力というのは皆さんお持ちだと思います。でも、そのあたり、やはりプロの力を借りて作っているというのがあるとする、そのプロの力っていうのを、必ずしも、みんなどこにそういうプロがいるのか分かる訳ではないし、自分と相性のいいプロはどこなのか、誰なのか分からない。逆にデザイナーの側も、これから育つ顧客を探しているってことがあるから、上手くいけばウィンウィンの関係が築けるといところで、これもある意味データベース化すれば、上手くいくかもしれないということでしょうか。ほかにロールモデルとかメンターみたいな、自分の事業をやるにあたって、こういうふうなお店にしたいとか、こういう事業経営をしたいなと思えるようなロールモデルをお持ちだった方いらっしゃいますか。

#### ○パネラー

自分がとにかく、キャリアアップできるような職場を作りたいというのはありました。他に理想とする職場が無かったのですよね。

#### ○コーディネーター

その職場を農業で創るという時に、農業の分野には無いけれども、他の分野にはその手の職場はありますよね。ただ、小さい所にはなかったというふうに考えられたのでしょうか。

#### ○パネラー

そうですね。やはり代理店や販売業としてだと、ワーク・ライフ・バランスとかいろいろ、皆さんうたっているのです。ただ自分が実際に働いてみて、それが実現できるかっていうと、難しいと感じたのが本心です。

#### ○コーディネーター

彼女は自分の雇ってらっしゃる方たちのワーク・ライフ・バランスを、一生懸命すごく気をつけてやっており、制度的に整えるだけではなくて、きちんと実用できるように作ってらっしゃる。よく言われるのは、小さい所ではそれは無理なんじゃないかと、大きな所だとそれができるけどという話を企業の方がおっしゃるのですが、小さい所でもできるということです。そのノウハウを知りたいという方いらっしゃいますでしょうか。ノウハウをどこで身につけられたのか、行政による中小企業支援の一つとして、あるいは創業支援の一つとして人が辞めない求人上有利な、求人票を出したら人が来てくれるような制度づくりや経営のノウハウです。どうしたらできるかということについて、市に何かいいアドバイスがありましたらおっしゃってください。

#### ○パネラー

やはり会社としての売り上げがある程度立ってないと、フレックスタイムも保険の整備もできないです。ということは、企業としての強みを自分でもきちんと分かっている、その強みで売上げを立てられるかどうか。それによって、女性が活躍できる職場ということの整

備ができてくるというのが正直なところですよ。ということは、まずベースとして今から起業する人は、自分がどういう企業にしたいのか、自分の強みはまず何なのか、それこそ他人から言われないと分からない、自分の強みが絶対あると思うのです。私自身もブランディングとマーケティングのことは、自分の強みとして持っていたのですけども、考えてみたら販売もできるし、栄養士の資格も持っているしね、て、人から言われて初めて気づくことができました。そういう女子会ではないですが、女性起業家の場合は、お互いの強みだよなという会なんかがあると、それをきっかけに売上げを立てられるような、ロールモデルができてくるのではないかと思います。

#### ○コーディネーター

人事管理や労務管理もあるけれど、まず売上げをきちんと確保できるような仕組み、次に売上げとか利益が一定程度立った場合に、優先順位として何を大事にするかっていうことがあるのではないですか。

#### ○パネラー

優先順位は、その企業によって求める人材によると思うのです。農業の場合だと、ある程度体力がないと難しいところとか、ブランディングということまで農業としてとらえると、販売のノウハウとか何がどこで売れるのかという消費者目線。弊社の場合は子育て中のママが消費者のターゲット層でもあるので、ということは、子育て中のママが働いていると、ターゲット層の視点も会社の経営に取り込める、ということが一つ強みだと思っています。そうすると、必然的に、自分自身が子育て中のママなので、自分が働きやすいとなると、残業ゼロはまずベースだとか、そういう形で求める人材に対して、何が一番必要かを考えています。

#### ○コーディネーター

はい、ありがとうございます。

まず自分の強みを知るというのは大切ですね。創業支援塾でもそうですが、事業を継続していくのが難しい時に、もう1回、自分の事業を見直す。いったい自分が持っている能力、資産を棚卸して強いものが何なのか考える時や大切なものの取捨選択の際にも相談できる相手と対話することで見えてくるものがあります。自分の店の良さとか、あるいは立地であるとか対象であるとか人材であるとかということが分かる、客観化できる相対化できるという部分もあると思います。

それでは資金面。これはまだお聞きしていなかったのですけども、資金面でキャッシュがたぐさんいるとか、お金の出入りを上手くコントロールできないとまずいということがあると思います。そういうようなことで、あるいは創業の時の開業資金等の準備で、準備した金額では少し不足しがちで慌ててしまったとかいう御経験のある方いらっしゃいますか。

#### ○パネラー

女性だからということですか。

#### ○コーディネーター

後輩が困ったりしないようにとのことなので、そこまでではなくても、差し障りのない範囲でお願いします。今ということではないので、過去のことだと思いますが、女性だからというのは出なかったもので、一般論でいいです。女性、男性関係なく起業する時に、あるいは、しばらくしてからでもいいですけど、資金面のことでお困りになったことがあれば、資金面でこういうようなサポートがあればいいなということがあれば。

#### ○パネラー

常にあります。白鳥ではないですけど水の上に浮かんでいると、すごく優雅ですけど、足はジタバタして火の車だと思った時に、起業セミナーに参加させていただいて、どんなに大変でも手元に2割は現金を残して置きなさいという言葉聞いて、もっと早く知っていればよかったと思いました。

#### ○コーディネーター

大変な時でも、これだけの余裕資金は常に持っていないとリスクに耐えられないと。それがあれば、逆に、少しゆとりを持って、気持ちにもゆとりがあるし、そのリスクが顕在化した時も何とか乗り切れるということですよね。

#### ○パネラー

今、思い出したのですが、中小企業振興公社さんの担当の方が、やる時は度胸ではなく、くそ度胸で行きなと言われたんです。でも、夜逃げするまで追い詰めるなという言葉がありました。やはり、潮時とか辞め時とかもあるのかもしれないし、自分は全然実績がないので、特にそこは。

#### ○コーディネーター

磯崎さんの一言が大きかったんですよ。後輩を育てるという意味でとても意味があります。資金のことは当たり前のことだけど、表に出にくいし、苦しい時はなかなか人に言えなかったりするんだけど、乗り越えた方は、言いやすいと思うんです。乗り越えた方が教えてあげる、これから起業する人に、こういうことがありうるよと。

#### ○パネラー

自己資金ののいたい1割を残して置きなさいと言われたのです。だけど1割では足りなかった。2割、3割、欲を言えば4割くらい、そのくらい残して置きたかったと思います。なるべく節約する。

#### ○コーディネーター

このようなことをストレートに教えて下さるような、つまり借りられるという金額の最大限を教えてくれるだけではなくて、実際にどれだけ手元に置いておくべきかということも含めて教えてくださる方。よく住宅ローンを組む時に、ここまで借りられるから大丈夫ですよと言われて返せなくなる人が世の中に結構いますが、確実に返せる金額、不況でボーナスが減っても返せる金額を借りるということのサポート、ちょっとした情報でも違うと思うのですが、経験者だからこそ言えることがある。創業支援塾とか相談の対応をされる方が、そこまで助言してくれるといいですね。それから助成金の活用をされている方もいらっ

しゃると思うんですけど、そういう情報の入手には、お困りではなかったでしょうか。

#### ○パネラー

そこはとても述べさせていただきたかったんですけども、最初お店をオープンしようという時は、割と時間があるというか、お金はどうやって工面しようとか計画できるのですが、お店を始めると年間300日お店に居ますので、補助金ですとか助成金を申請するのが大変です。もう少し小口な感じの助成金を、簡単な申請で受けることができれば、それこそ10万円、20万円でも活かしていきたいです。そこをぜひ言わせていただきたかったです。

#### ○パネラー

福祉施設なので、施設整備をしないといけないと事業が始められないので、最初に非常に多額の金額が必要になってくるんです。グループホームをつくる時に、県のほうに国交省の施設整備の協議に行った時、国の補助金では難しいから民間の補助金、こういうところに応募してみたらどうだろうかということで、行政の人がこういう補助金もあるよ、こういう補助金もあるよというふうに教えて下さって、それは非常にありがたかったなというふうに思います。実際にオートレースの補助金があるから、藤澤さん応募してみなよということで応募して、それをいただくことができて、結構金額が大きかったのでそういった行政の人が、国交省と県の補助とか市の補助とかということではなく、他の補助のいろいろなことを教えてくれて、ありがたいなと思います。

#### ○コーディネーター

補助金は、国ベースから自治体ベース、水戸市さんから、あるいは経営者協会や商工会議所が出しているもの、いろいろあると思うんですけども、その情報が1か所で入手できると全然違うでしょうね。例えば、登録した人たちには、メーリングリストでこういう補助金が今あります、今募集していますという情報をURLと共に、あるいはクラウド上か何かにファイルがあってそこで取る。

#### ○パネラー

この間受けた助成金の絡みで、国のどこからもらったか分からないですけど、ミラサポっていうのでメールが自動配信されるっていう、あれも市がやってくれると、市の補助金や経営情報について分かって、ありがたいです。

#### ○コーディネーター

いろいろなところで助成金を出しているけれど、それが一覧になっているとすごくいい、それが業界ベースで一覧になればもっといいけれども、例えば、福祉系・製造業系とか、それがあるだけでいいし、どこにアクセスすれば業界別に一覧にいけるとかいうのでも違う。もちろんメーリングリストで流れてくればもっといいかも知れないけど、それがダメだった場合でも確実にそれを取れる状態にして置く。だけどやはりメーリングリストでこういうのがありますよって来たほうが確実でしょうか。情報提供、相談支援ということに関してさまざまな情報がたくさんあって、それをお金から人的なもの、取り扱っている商品、お客さんを紹介して欲しい等、さまざまなものがあると思うのです。金融機関だって、例えば、

業界の原材料部門から最終商品、お客さんのところまでカウントしてつないでいくような人を紹介する、そういうことをやっているのと同じで、水戸市さんの中で上手く繋がらないかなと思ったりもしています。皆さんでも、しかるべく人たをきちんと見つけて何とか事業として立っていきすばらしいですけども、苦しいこともおありだと思うので、相談しあえる関係性を作ってもらいたいと思います。

次に最後にまとめてやると言った保育系です。保育だけではなく、介護も含めて経営者としても自分自身も、それから従業員の方も含めてワーク・ライフ・バランスを取るために、どういうことを市に要望するか、事前にいただいている意見では、とにかく待機児童を何とかしてということでした。それは市としては百も承知なのではないかと思っています。県の中で、4月の待機児が1位2位を争う。私は県の子育ての計画策定部会にもおりますので、水戸市さんがかなり厳しいと分かっていたけれども、やはり少し工夫する余地がある。経営者にとってみると、従業員をようやく見つけて保育園に預けられさえすれば今からでも働いてもらえる時に、保育所に入れる時まで待ってもらわなくてはいけないというのがあります。今、人がなかなか来てくれにくい時に、子育て中の勤めにくい人を確保するというのが一番ターゲットになります。特に小さな所だとそういう方たちが来て、もしワーク・ライフ・バランス的な職場運営をされた場合には、そこで働きたいという人が来るし、その時に少し待ってもらっている状態が保育でも介護でもあるとお伺いしています。

#### ○パネラー

そうですね。今もひとり1歳児のお子さんがある方には、うちの保育園もいっぱいなので待ってもらっているところです。2歳になると、少し保育士の数も緩和されるので、2歳になるタイミングだったら多分大丈夫だということで、6か月、7か月くらい待ってもらっているのです。うちの従業員にも結婚式のスピーチでこんな話をよくするのですが、子どもを産む時期も考えてくれと、4月1日に0歳でないと、そこで1歳になっているとダメだからというのを結婚式の祝辞のスピーチで言うのです。でないと持ち上がりが入ってしまい、うちの保育園でさえ入れられない。

#### ○コーディネーター

ありがとうございます。仕事をしていく人たちにとって、いつ子どもが産まれれば保育園に入れるのかを考えなくてはならないとなると、子どもが産まれにくくなってしまいます。1年中いつ子どもを産んでもちゃんと保育園に入れる状態をつくるのが、ある意味ワーク・ライフ・バランス支援ではもっとも重要だと思います。国が目標にしている、継続就業率を上げるためにも、0、1歳児、ここですね。1歳児のところは、やはり余裕を持っている必要があると思います。ただ、これから出生数が減るかもしれない見込みが立った場合でも、余ってもいいという、そういう余裕。いつでも11月だろうが12月だろうが入れるという状況を作るための工夫が必要になっている。これからの見込み量と、保育料の金額のどこに設定するかで、動きがだいぶ変わりますね。預けるほうの動きも相当変わる可能性があるもので、作る側としては、かなり難しい読みもあるかも知れない。余裕があつていいという割り

切りが、水戸市さんと県南のほうの市は必要だという感じがしています。そのことが起業支援に繋がって、0，1歳児のところで継続就業率上げるとすると、正規雇用的な働き方ができる人たちが増えるので、住民税の納付率、金額、つまり世帯所得の高い人たちが増えます。継続就業率が高いということは、そういう意味では、地域の収入という点でも十分意味があることです。とにかくいつでもみんなが働ける、子どもを預けて働けるようになると良いです。それで先程、百武さんが水戸市の保育の質は結構良いのではないかとおっしゃっていたので、そうやって安心して預けられる保育園が、さらに量があればもう鬼に金棒で、水戸市さんの子育て環境は本当に良いということになると思うのです。今、量が足りてないので、質と量の両面追及でぜひ頑張ってもらいたいということでしょうか。

#### ○パネラー

水戸の保育園に入って思ったのですが、迎えに来る時におじいちゃん、おばあちゃんが多いのです。実家で同居しているとか、近くに住んでいるという方が非常に多いのです。実家が両方とも遠いという方が余りいない。今、学童保育ですが、その学童保育もおじいちゃん、おばあちゃんが迎えに行く方が非常に多くて、実家がそばの人が優先的に入れているのかと思ってしまうくらい多いのです。実家が遠い人が優先ではないかと思うのですが、そういう家庭というのは、おじいちゃん、おばあちゃんが4時くらいに迎えに行くので、そうすると預けている私からみると5時くらいに迎えに行っても、もう1人とか2人しかいません。そんなに必要でないのであれば、もう少し基準を変えたらいいんじゃないかなと思うのです。だから実家がそばの人とか一緒に住んでいる人は、優先順位を少し落とすとか、夏休みも実家がそばだから、学童へ行かないで実家で見てもらっているのかなと思うのです。そういうのも基準に考えていただきたいなと思います。

#### ○コーディネーター

私はつくばで子育てをして、全く違うと思いました。学童保育は夏休みも、すし詰め状態でした。7時まで預けている人たちはたくさんいて、6時半で保育園が7時だった時に、みんな間に合わない人が続出で、その後しばらくしたら7時になったので、ようやくOK。7時まで預けている人たちは、フルタイムで働いているので残業もあるから、保育園が7時というのは意味がある。小学校に入ったらもっと働けるだろうってことで、みんな7時が当たり前だったのですが、そうなってくるとニーズというものが、二極化しているということになると思うのです。フルタイムで長時間預けなくてはいけない人たちと、長時間保育を学童も含めて求める必要がない方たち。ただどうですかね。地域にないと困りますもんね。

#### ○パネラー

お母さん方はフルタイムですが、実際お母さんは迎えに行かないで、おじいちゃん、おばあちゃんが迎えに行くので、早く帰ってしまう。すると子どもが少ない状態で預けているので、逆にかわいそうで、預けていいのだろうかというのをすごく思うので、預ける時間の長さで、ここまで預けたい人を優先的にするとか、そういう形にはならないのかと思うのですが。

**○コーディネーター**

それは確かに時間が長い方たちがほんの一部で、早く帰る人たちばかりのところに、子どもが一人ポツンと残ると、すごくストレスフルな状態が起きるというのもあるので、ニーズ別に部屋割が違うだけでも、違う気はするのですけれども、確かにいつも一人が残っているという状態というのはあまり望ましくありませんよね。

**○パネラー**

実際にお母さんがみんな迎えに行かないで、おじいちゃん、おばあちゃんが迎えに行っているから、そういうことになるんだと思うのですけれども、そのあたり何か調整してもらえればと思っています。

**○高橋市長**

別居しているおじいちゃん、おばあちゃんの自宅からの距離というのは、審査の判定に入っているの。

**○鈴木幼児教育課長**

いいえ、入っていないです。

**○高橋市長**

だから、お父さんお母さんの両方が正社員で働いているというのが、点数が高い訳です。100m先に、おじいちゃん、おばあちゃんがいるというのは、市役所では気が付かない訳です。

**○鈴木幼児教育課長**

同居しているか、いないかは把握しています。

**○高橋市長**

同居しているか、していないかだけは審査があつて、おじいちゃんおばあちゃんが別居している場合に、100m先に住んでいようが、2km先に住んでいようが審査には入らない。

**○コーディネーター**

ただその場合、例えば、県内とかに近親者がいないと記載した人がいるとするじゃないですか、全く親族の助けを得られないと書いた方がいた場合、その情報は優先的に考慮されますか。

**○鈴木幼児教育課長**

それは、大丈夫です。

**○コーディネーター**

情報を出す側が、自分が困っているという情報を、市に伝えるという技術も必要だということですよね。

**○鈴木幼児教育課長**

申請の段階では、祖父母の住所まで書いていただいております。ただ県内とか県外とか、自宅の近くということは分かりますが、その距離まで測ってということはしていません。祖父母が別居ならば、もちろん県外だったら優先されます。ただ、すべてを調整しきれない

というのはあります。

#### ○高橋市長

県内，県外くらいの違いで，100m先なのか，10km，5kmの違いなのかということは，審査に入らないのです。

#### ○コーディネーター

5時までの子どもでも，ちゃんといられる場があつて，だけど，どうしても長時間必要な子どもたちは，また別のニーズというふうに捉えて，サービスを提供するということもあるかも知れないですね。もし水戸が，そういう風に近居の方たちが多くて，4時，5時でみんなが帰ってしまうということであれば，それはそれで，追い出していいって訳ではないですけど，そこはそこで，通常の学級の延長で学校の中にいろいろな場を作って，その子どもたちの居場所をきちんと確保すると同時に，フルタイムの保育並みの7時までとかというような，あるいは，もう少し遅いようなベビーシッターさん，二重保育という方もいらっしゃる訳なので，そういう方たちが利用できる場所も必要なのかと思いました。いつも残っているのが，1人，2人になると，そういうことはニーズがないのに，無理してそこまで居なさいっていうのは，良いわけでは無いので，ニーズに応じて提供するというのも必要になってくると思いました。

先ほど，近居，同居ということも出ましたけれども，保育園の申請方法や，保育基準については，ある程度窓口でお尋ねすれば，回答してもらえることがあるわけですかね。

#### ○鈴木幼児教育課長

窓口に来ていただければ丁寧に対応しております。自分の家族の状況も洗いざらいお話し下されば，備考にきちんと記入していますので，同じ点数になった場合は備考の欄を読んで調整をする形になっております。

#### ○コーディネーター

本人がその点数というか，自分の優先がどのくらいになるか，理解できるようになっているのですか。

#### ○鈴木幼児教育課長

点数で決めますということの他に，こういう人は点数が高いです，こういう人は点数が低いですという，先ほどのように両親がフルタイムで働いていて，核家族であれば点数が高い，おじいちゃん，おばあちゃんと同居している方がいれば点数が低いですといったある程度内容は示しております。

#### ○コーディネーター

ありがとうございました。今の関連で言えば，パートさんたちの方が，ここにいらっしゃる方たちは影響が多いので，パートさんで優先順位が低いと，今，非正規が特に人手不足で人手不足倒産も県内出てきている中では，パートの子育てママさんを労働市場に引っ張り込めないと，経営の方にもマイナスになりかねないという意識は，今までより強く持つ必要が出てきたと思います。

では次に、サービス業等の土日や夜間の業務についてです。三浦さんのところでは、ワーク・ライフ・バランスをできるようにしているとのことでした。そういう中小企業の努力とか工夫、こうすれば上手くやれるということを言っていただくと有り難いです。大手ばかりじゃなくて小さな所で、うちでも真似できるというのをメインに押し立てたような、創業支援や事業継続のための企業経営者向けの講座に、情報提供とか啓発をいれるということもあって良いのかと思います。うちでも真似できるというようなことがあった方が良いでしょうね。苦勞してらっしゃる方がすごく多いとお聞きします。

よろしいでしょうか。それでは1分間くらいでまだ言いたいことがあったらどうぞ。

### ○パネラー

これから女性に働いてもらうためには、行政にしてもらうことも必要だと思いますが、パートナーは男性なので、男性の教育とか、女性と男性の価値観の想像だと思うのです。女はこうだとか、女だからこうしたほうがいいのか、男の人はこうしてとかそういうのではなく、肉体的にも違うし頭の中も違うのでそこは大事だと思うのですけれど、そこを分かった上で補い合いながら生活の部分をやはり男性にサポートしてもらわないとできないと思うのです。私はやりたいように仕事をやってここまで来ましたが、それは夫が家庭で料理を作ってくれて、掃除も洗濯もしてくれるし、迎えにも行ってくれる、そういうのが無かったら絶対にできなかったです。いい旦那さん見つけたねと言われるのですが、そういう夫だから結婚したのです。家事もできない人と結婚しなかったです。そういう人が世の中にいっぱいいれば、働く女性も結婚ができて出産もできるのです。だから男性の教育は、すごく大事だと思います。

### ○コーディネーター

起業経営者の皆様に聞きます。自分の夫は生活面でも、家事、育児、男女関係なくサポートしてくれて最大の支援者ってくらい言える人は？

つまりこれは、パートナーがいる場合に、邪魔になると続かないのです。邪魔にならず、より応援してくれるということですよね。だいたい協力って何なのか、一緒にやるってことですよね。育児を「手伝う」という人がいるけど、一緒に子育てするんじゃないかと思うのです。そういう感覚で相手を選んでいると思うのです。私も女子学生に、相手はよく選ばないといけなくって、男子学生にも言っています。自分が好きな人と結婚したいと思ったら、生活技術を身につけるのが1番であると、自分はいかに料理が得意であるかということと言った方がよっぽど早いと言って、今、一生懸命息子を特訓しなくてはならないと思っています。皆さん教育の場で、学校教育とか、保育園だったり学童だったり、さまざまなところで楽しく生活技術を身につけて、ひとり暮らし、下宿する時とか留学した時でも、安く美味しく簡単に御飯が作れる。独立しても、まさか御飯をつくってもらうために結婚する訳ではないというような感じになればいいなと思います。教育面でもテクニカルな技術ということをおっしゃっていると思うのです。そういうところは、まだまだ前進の必要がある。まだ茨城は少し遅れているかもしれないというか、家事参加度が男性は低いかもしれない

いですね。同居とか近居だと特に男性がそういう風に育ちにくいと言われているので、そのあたり意識して育てる必要があるのかも知れません。

本当に6人の方においでいただきましてありがとうございました。業界も、それから家族関係も含めてですね、ニーズがそれぞれ違います。世代も含めて、子育て中の人もいれば、介護で苦勞されている方もいらっしゃいます。あるいは従業員で苦勞されている方もいらっしゃる。保育と介護という人を集めるのがすごく難しい業界で、相乗効果でプラスに働きたというお話もして欲しくて、指名で藤澤さんにも来ていただきました。女性の経営者が置かれているさまざまな状況について、お話を聞くことができたと思います。時間と腕があればもう少し聞けたかも知れませんが、今日のところはここまでです。このあたりでぜひ、高橋市長に今日の話を受けてお話をしていただきたいと思います。ぎっしりのメモを取って下さっているの、たくさん伝わっているのではないかと思います。

### ○高橋市長

皆さん、本当に本日はありがとうございました。座ったままで申し訳ございません。

まず清山先生に、素晴らしいコーディネートをしていただきまして本当にありがとうございます。先生のお話の引っ張り出し方が良かったので、用意してきたメモ用紙に書ききれないほど書かせていただきました。皆様が生活する上での、いろいろな現状把握をすることができて、なるほど、こういうこともあるのだ、それは反映させなければならないというのがありました。担当課も議事録を作っておりますから、行政として政策判断させていただきたいと思います。いろいろと、子育て等について厳しい御意見もいただきました。皆さんが経済活動、企業経営を行っている中で、もっといろいろお困りのことであるとか、何か市に対する要望がたくさん出るのかなと思いました。皆様方にいろいろと叱られるかなと思ったんですけれども、そうではなかったことに大変安堵しています。実は私自身が、清山先生がおっしゃった黒字倒産の会社を経営しているところでございまして、1億数千万円の借金を抱え、常日頃の資金繰りに大変な思いをしながら、会社経営をしているものですから、皆さんにも、特に金銭面での悩みがあるのかなと思いました。皆さん何とか自分たちの力で調達をしているということで、逆に女性のほうが強いなということをおもわれました。今日、偶然にも、常陽銀行さんと指定機関の意見交換がありました。その時、聞いてみたのです。実は夕方こういう集まりがあるので、参考までに聞きますけど、男性、女性で資金繰りを差別したことはありますかという話をしたら、30年前、40年前は分からないけれども、ここ最近では、女性だ男性だということで判断をしたことはない。ただ、女性でも男性でも、貸せるものは貸せるし貸せないものは貸せない、そういう判断をしていますと、代表たる金融機関がおっしゃっていました。そういう部分においては、今日皆さんがそういう悩みがなかったということからして、本当の話だったことを改めて実感いたしました。

そして、まさにタイムリーな話なのですけれども、今日、商工課が来ているのですが、来年の商工行政の、ある意味目玉事業として指示をしているのがあります。それはどういうことかと言いますと、先生は、つくば市に住まわれていました。つくば市と水戸市とを比較し

て、起業家、起業をする方にとって、「優しいまち」ってどちらですかって聞かれると、つくば市じゃありませんか。何か私たちそういうイメージを持つのですけれど、水戸市は会社を起こす人に対して、優しいとか、ここで会社を起こしてみようとかってイメージが湧かない。自分が政治家をやっていると思うのです。けれども実は、これだけ聞かれた時のために答えようかなと思って資料を用意して来たのですけど、とにかく制度はあります。制度もあるし、水戸市ではないにしても外郭団体とか、あるいは関連団体とか、県関係の団体とか、先程の民間だとか、いろいろな相談だとか、補助規定だとか、補助制度だとか、いろいろあるのですね。けれども、そういうことが知られていない。あるいは、もちろん制度的に不十分な部分もあるでしょう。そういうことで、起業家にとって優しいとか親切だとか、あるいは、水戸で会社を起こして見ようかっていうのが、積極的に思えるような「まち」かどうかっていうと、そうでは無いというところに反省をしなければならないと思っています。まずはそのイメージづくりから始まっていくということで、それは指示をしているところです。本当は、そういう所も、ヒントでいただければ、ありがたかったのかなと思いますので、ぜひ皆さんにそういう御意見があれば、いただきたい。例えば、先程の情報、先生がおっしゃった業界ごとにこういう制度がありますとか、とにかく情報をどういうふうに皆さんに肌で感じられるくらいに提供していくか。この間マラソン大会を開催した時に私どもに抗議のメールが届きまして、「私はマラソンに興味がない。町内会に入っていないから広報誌も見ない。一切情報も何も取らない。ラジオも聴かない。全く興味がないのだ。それで家の目の前が通行止めになった。どうしてくれるのだ」という話なのです。そういうメールが届いたのです。つまり、いわゆる情報を取らない、興味のない人にも、情報を届けるということなのですね。それは、市民の声として受け止めていかなければならないことなのです。本当に情報を取らない人にも、やはり、こういう情報は提供しなければならない。本日はみとの魅力発信課長が来ているけれども、情報を取らない人に、いかに情報を肌で感じていただけるかというのをやっていかなければならないのですよね。特にこの起業、会社を起こす人にとっての大切な情報であるとか、あるいは、その情報で背中を押されるとか、水戸でやって見ようという、積極的にその会社を起こしてみたいというイメージづくりとイメージだけでなく、どういう制度が必要なのか。そんなことを、来年の商工行政の目玉事業として予算に反映をしていきたいと思っておりますので、もし、こういうアイディアがあります、というのがありましたら、今、言っていただければ、ありがたいなと思います。

## ○パネラー

話しがずれてしまうかもしれないのですけれど、私、千葉県出身です。それで水戸は、やはり県都ですごく素敵なのです。来年、明治維新150年、それでこの間、NHKを見ていたら、100分で分かる名著っていうので、親鸞の歎異抄を特集していたのです。それで本を買って見てみたら、あれを書いた人も水戸のお寺の碓円さんという方だったというのも分かりました。もっともっとすごい歴史の素敵な魅力が、外から移民を受け入れるように、自分たちが出て行かないように、もっと自分たちが自分の「まち」を分かるようにしていきたい

って思いがあります。

#### ○パネラー

水戸二中と一高、それから三高の辺りですね。すごく綺麗になりましたけど、誰も人が通っていないのです。これから、どういう風になるのでしょうかね。あそこはイメージがすごく良いです。

#### ○高橋市長

あの辺りは、日本遺産を認定された弘道館を中心に、やはり、水戸の歴史を感じていただく一つの観光拠点、つまり、一対の偕楽園と一対の施設で造りながら、偕楽園は100万人以上来るけれど、こっちは5、6万人しか来ない。何とか今は、日本遺産の認定を受けたことで、8万人が来てくれるようになりました。さらに、あの様に綺麗にすることによって、やはり2桁の10万、20万人の人を呼べるような、まちなかの観光拠点、まちなかに観光拠点が無かったので、そういう水戸の文化を感じていただくような拠点にしていきたいと思っています。

#### ○パネラー

坂を下りて行く所は、どうなるのですか。

#### ○高橋市長

三高の下の方坂は完成形です。道路の往来ができないものですから、あちらを先に完成させました。今、附属小の方、大手門と角<sup>すみやぐら</sup>櫓の復元整備のため工事を実施しています。

水戸で会社を起こしたいと、積極的に思えるようなイメージ作りと広報戦略、そして今の制度に、プラス何をしていったら、そういうふうになっていただけるのか、そんなことを来年の目玉事業としてやっていきたいと思っています。そこは担当の方に指示してありますので、ぜひ皆様方には、こういうイメージ、あるいはこういう制度があったら、特に女性の方が、もっと水戸で会社を起こしたくなるか、ぜひ、御意見をいただければと思います。

#### ○パネラー

やはり健康第一ですね。お店を始めたころ、八助さんも夜中2時までとおっしゃっていたけど、毎日のように、虚弱体質で走り始めたんですけれども、だいぶ体質が変わって、水戸黄門漫遊マラソンも参加させていただいたのですけれども、やっぱり、健康だと思うんです。

#### ○パネラー

女性は大資金を、借入してやる勇氣はなかなかないと思うので、小さい事業を始めるところを簡単に、ここは家賃がタダだよとか、すごく小さいのを、始めは安くしてあげると、そこから伸びてくるところは出てくると思いますけれど。

#### ○コーディネーター

水戸の中心部で、少し空いていますよね。空洞化しているのだけれども、あそこが空洞化したままではなくて、マイクロなお店、小さなお店でも入ったほうが雰囲気も良くなるし、起業したい人にとっても、あそこは場所的には良いし、良い場所にあると、しかしテナント料が高くて手が出ないという時、テナント料ゼロ、入らないで空き店舗にしていた方がいい

という状況があるのが、どうかという御意見をいただいたりしているのですよね。その辺で  
すかね。単にお金の助成というだけではなく、そういうところの仕組みが何とかならないか  
ってというようなお話はあるかな。

あと先程、市長さんが何度もおっしゃっているのですけれど、ニーズっていうか、要望と  
して、例えばお金の話っていうのは、無いわけでは恐らく無いんだけど、ここに来ている  
人たちは無いのか、あるいは、言いにくいという状態があるのかなと思ったりもするのです  
けど、情報ですね。金融、お金のことであるとか、人を雇うことについて、社会保険に関す  
ることだとか、あるいはブランディングとかマーケティングとかそういうことに関して、自  
分が起業するにあたって学べるところとか、取るべき情報はどこにあるとかというのが一  
冊になっていると、相談に来た人に、どこの市内の金融機関に行こうか、水戸市の窓口に行  
こうか、どこに行っても、その一冊はまず手に入って、アクセスできるようになるというの  
も良かったりするのかなっていうふうに思います。あともう1つ思うのが、サイトでクリッ  
クするじゃないですか、水戸市さんのサイトで、例えばクリックした時に、その次の情報が  
欲しいなと思う時があるのですけれど、次の詳しい書類というのが、それがPDFで入って  
いるとそのまま行かずに情報が取れるのですけれども、詳しいことはどここの窓口と書  
いてあることが結構あるので、詳しいことが取れるように、サイト上設計できないものかな  
と。でも、それを入れるのが大変でたくさん情報を持っているというのが、特に県都でもあ  
るし、先程おっしゃった、水戸は県都であるということが、非常に有利な立ち位置ではやは  
りあるので。全ての支社、局、つくばにはないけど水戸にはあるとかですね、様々なものが、  
そういうふうにある訳なので、情報もそれだけ市が持っているのが大きいってことが分か  
るんですね。今IT化の時代なので、その情報を行かなくてもできるだけ取れるようにし  
て、行く時はピンポイントで相談しに行くみたいなのところになると、1回行く回数が減る  
のかなという気がします。他に元気にするコツはありませんか。

#### ○パネラー

すみません。私、水戸に来て3年目になるのですけども、恥ずかしながら、先程水戸市の  
Facebookに初めてインをしたのです。心掛けていることがあって、私自身ゆとり世代という  
こともあるのですけども、やはり、これから活躍してくる方とか消費の中心になってくる  
方は、SNSに慣れていて、インスタ映えという言葉がベースとしてあるんですね。そうす  
ると起業するにあたって、水戸に対して魅力を感じるには、水戸をブランドとして使って  
いきたい。水戸で起業しているからこそその、ブランドっていうのがすごく大事かなというふ  
うに思っていて、そう感じるためにはビジュアルのいい写真をFacebookに投稿していただ  
きたいと思いました。きちんとプロのカメラマンっていうことまではいかないかもしれない  
のですけども、趣味で写真を撮っている方とかもいると思うので、そういう方を上手く活  
用して、うちもそうなののですけども、ビジュアルって大事になって思いました。

#### ○コーディネーター

三浦さんのところも良いですね。上手いところは、みんな生き生きとしている写真なの

で。お金もかかっているのでしょうけれども。

#### ○高橋市長

数年前に茨城大学の学生と懇談を持ったことがあるのです。その時にある女子学生がこんなことを言ったのです。「水戸に住んだら、どういうライフプランが描けるか。やはり、それは示されるべきですよ」みたいなことを言われたのです。私はその時に、就職先も違う、そうすれば収入も違う、収入も違う中でスタンダードにライフプランって水戸に住んだらこうですよと描くのは難しいですねって、冷たい返事をしてしまったのです。しかし、後から考えてみた時に、確かにその部分は難しいかも知れないけれども、ある程度水戸に住むとこういう制度があって、例えば子育てだったらこういう制度があって、介護だったらこういう制度があって、ある一定のこういう水準で生活をできますよっていうことが、示されるといいなということを、実は後から思ったのです。あの時、学生に冷たいことを言ってしまったけれども、やはりそういういろいろな情報を先程の起業の情報も含めて、子育てや介護の情報も含めて、水戸に住んだらこういう将来像が描ける、こういうのを活用すると、こういう生活ができる、そういうことをきちんと市民に示す。あるいは水戸市外にいる人にも示していく。そのことによって、水戸に呼び込むというやり方は必要な、そういうこともまた研究をしていきたいと思っておりますので、ぜひ、先生や皆さんに御指導いただければと思っております。あと最後3分のまとめ、先生お任せします。

#### ○コーディネーター

本当にそうですよね。大学に進学して外に行っちゃって、戻って来てもらうためには、やはり今、市長が最後におっしゃったことが、外に行くまでに伝わっていると戻ってこようかという選択肢が十分に出てくると思います。

学生との対話を大事に、今でも記憶して下さいありがとうございます。市政にいかしていただければ、何よりの企画だったのではないかと思います。

今回の企画も、初めて経営者の方たちをお招きして、行政懇談会という形で聞く機会を持って下さったと伺っております。ぜひ、今日出た御意見を思い出していただきたいです。もしかして予算をつける時などに、これは大事だとかっていうことがあるかもしれません。そういう時に、役に立つことが聞き出せていたら良かったと思いながら、今日の行政懇談会を終わりにしたいと思います。

## 平成29年度 第2回行政懇談会記録

### ○石塚男女平等参画課長

本日は御多用の中、「働く女性と市長との懇談会」にお集まりくださいます、ありがとうございます。本市におきましては、このように働く女性と市長とが直接懇談していただく「行政懇談会」は、初めての試みでございます。

先日の「女性経営者の部」に引き続き、本日は2回目となり、市内の企業や事業所に働く女性5名に御参加いただいております。働く女性が何に困っていて、本当に必要な施策は何か。KKO（勘と経験と思い込み）ではなく、きちんと根拠に基づく政策を行っていきたい。また、アンケート調査だけではとらえきれない声を、直接市長に届けていただき、施策に反映させていきたい、というのが、この会の目的でございます。

それでは本日、コーディネーターをお願いしています、清山先生を御紹介いたします。

この懇談会をスムーズに進め、活発な御意見をいただくため、労働経済や社会政策の専門家であります、茨城大学人文社会科学部教授の清山玲先生をお願いしております。清山先生は女性の就労問題に精通しておられ、シンポジウム等のコーディネーターの経験も豊富でいらっしゃいます。ぜひとも、御出席をいただきました皆様には、自由で活発な御発言をお願いしたいと存じます。

そして本日は、水戸市から関係部署の課長等も同席いたしまして、御意見を伺わせていただきますので、御了承いただければと思います。

それでは清山先生、よろしくお願いいたします。

### ○コーディネーター（清山）

行政懇談会は、今年が水戸市で初めての試みということです。働く女性達が子育てや介護等でどういう状態にあるのかということと、水戸市がインフラやサービスその他を整備していく時に、どういう視点が必要であるか、具体的な制度について使い易さや改善すべき点等について、皆様から示唆をいただきたいということです。

抽象的なお話はいろいろな本にも書いてございますし、市長さんもたくさん勉強されていきますので、それよりは具体的な生の声を届けたほうが意味はあるかと思います。アンケート調査などでは分からない、できるだけ皆様の具体的な経験に基づく、こういうふうにして欲しかった、こうあれば子どもも生みやすいし、仕事も続けやすい、というような今後にかせるお話をいただきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願いします。

それでは最初に、この懇談会の主催者である水戸市長からこの懇談会に対する期待思いをお話いただきたいと思います。

### ○高橋市長

お忙しいところお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。また、清山先生には、前回に続いてコーディネートを行っていただきまして、本当にありがとうございます。

前回は清山先生の非常にスムーズな運営のもとに、良い御意見を導き出すことができて、私たちも一つひとついろいろと反省をさせられながらも、施策にしっかりと活かしていきたいと思っております。今日は、経営者ではなくて働く立場から、社会あるいは行政に対する疑問や課題、あるいは批判や文句でも結構です。いろいろと出していただきながら、しっかりすり合わせをさせていただいて、これからの施策に反映をさせていただければと思っております。

実は私、水戸市長という顔が主な仕事ですが、傍ら会社の経営もしております。実は、ヴィオーラさんとは取引があります。小さなゴルフ練習場を経営しております。提供いただいた) こういう良いおしぼりをぜひ取りたいと思うのですが、お金が無いものですから安いおしぼりで申し訳ございません。やはり、中小零細企業は悩ましいところがありまして、正社員は私とマネージャー2人だけ。あとは全員パート。窓口、フロント、清掃、ほとんど女性なのですが、みなさんパートです。だいたい12人か13人でシフトしてやっております。悩ましいのは零細企業ですから、言葉は悪いですけど、人的ストックがないのです。ですから、その方が長期間休まれる、例えば、出産であるとか育児であるとか勿論それは権利でありますから、ただそうすると、ストックがいらっしゃらないので、新しい人を採用してしまうのです。その方が職場に復帰した時に新しく採用した人にお辞め下さいということは言えないものですから、代替の方の採用を覚悟で、育児とか出産に入っていたかなくてはならない。私、行政で水戸市長として、「そういうことダメですよ」と言いながら、実は自分の会社はどうにもならないのです。どうしても辞めて頂くしかない。あるいは逆に御理解を頂いて新しく募集する方は、今やっているのは、3か月だけです。元の人に戻って来ますので、それだけですと言って、来て頂いているというような状況でございます。中小零細企業として雇用をしっかり守っていくということ、なかなか正社員として雇うことが、全体の会社の収支バランス的には厳しい。それから中小零細ですから、ギリギリしか人が雇えないので、回すことができないから、何かあった時に補充をしてしまう。その補充の仕方について、悩ましいことを抱えながら、実は反面、水戸市長としては、「そういうことはダメですよ」と言っているような状況でもございます。

そういうことで皆さんが常日頃、いろいろ疑問に思っていることとか、法律も含めて、世の中こうした方が良いのではないかということ。あるいは、私たちの政策も含めて、いろんな御提言や批評をいただければありがたいと思っております。限られた時間ではございますが、清山先生のリーダーシップの下に、また素晴らしい皆様の御意見が導き出される良い時間になれば良いと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○コーディネーター

市でも事業でも悩ましい思いで、トップマネジメントとしてお仕事をされているというお話をいただきました。こちらは働く場として、働いている時に逆に困っていることというのがあって、それをどうしたら経営と共に幸せにやっていけるかも含めて、皆様の方から御提案等いただきたいと思います。御経験も踏まえてお話して下さるとありがたいです。

最初に、自己紹介を兼ねまして、先程打合せしましたけれど、皆様の今日お伝えしたいことをきちんとネタの中に仕込んだ自己紹介を最初に5分ずつやっただきまして、その後で皆様が書いて下さったアンケートをもとに、全員が共通ではないですが、水戸市民がワーク・ライフ・バランスをしていく上で、共に行政に望みたいであろうと思われることをピックアップして、そのことについて深堀していきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

吉野さんから順番によろしいでしょうか。

## ○パネラー

はい。水戸の株式会社ヴィオーラからやって参りました。吉野のぞみと申します。よろしくお願いします。

今日はこのような場に、選ばれたと言って良いのでしょうか。いつも水戸市民のために、高橋市長ありがとうございます。いつもお世話になっております。当社は今年で創業55周年を迎えました。レンタルおしぼりや、今は時代のニーズによりまして、介護施設さんに私物洗濯、後は美容室さんに美容師用タオル、洗い物ビジネスと説明させていただいているのですが、その中で今、従業員が180名くらいです。その中でパートやアルバイトさんが80名。そして私たちはチャレンジャーという呼び方をしておりますけど、障害者が40名程度おります。後は準社員という立場の方もいらっしゃいます。ですのでダイバーシティとよく言いますが、色々な人が働いているという面では、日々楽しく面白く過ごさせていただいております。そういった中でも、私たちの職場は約7割が女性ですので、このような形で女性の声を聞いていただくというのは、とてもありがたいです。よく社長が常々、本当に女性は能力が高いと言っております。そして私も女性って本当に素晴らしい、能力が高いと思います。女性はいろんなことを同時進行できたり、頭の回転が速かったり、自分が思っていることを直球で伝えられたり、そういう面で女性の活躍というのは、これからますます広がっていくと思います。

当社はやはり小さなお子さんがいる方が働きたいと来られます。小学生以下のお子さんがいる女性が、「小さい子どもがいるというだけで、面接で落とされるのです。だからここで働けて本当にありがたいです」と言って涙を溜めながらおっしゃって下さるのを聞いた時に、まだまだ女性には働きにくい環境なのだとことをすごく感じます。あともう1つは、女性というのは真面目なのです。多少、自分の具合が悪くても休まないのです。逆に熱があるのに出勤したとか調子が悪いという時に、もう大丈夫だから、無理してやらなくていいからと言って帰すのです。それぐらい女性というのは、働くということに対して真剣というか思いがあるのです。そこにお子さんが入ってくると、どうしても休まざるを得ない、見てくれる方がいないということで休みます。その時も、申し訳ない、申し訳ないという思いで休まれるのです。ただ、私も経験して来たので分かるのですが、女性が母親として本当に子どもの具合が悪い時に、申し訳ないと思いながら休まなくてはいけないということがどうなのだろうと。子どもは宝だ、もっと生み育てましようと言っている時に、なぜ常に申し

訳ないっていう思いをしなければならないのかと本当に感じています。

あともう1つ、介護のほうは今、両親が2人とも70代以上で、2人で暮らしています。母が数年前に倒れまして左側が少し不自由です。元気にはしているのですが、私も正社員で働いていることもあり、今は父が面倒を見てくれています。思うのは父の年代は、どうしてもネットで情報を収集するなどが苦手なのです。確かにネットは素晴らしいのですが、世代によってはネットというのは難しいところがあるのと、お布団干しなど力仕事がつらい、腰が悪い腕が痛いと言って、お布団を干せない状況というのが、私は見ていて切ないと思うのです。お手伝いできる時は行くのですが、そういった経済的な部分もそうなので、何かそういった支援などがあると、ありがたいと思います。以上でよろしいでしょうか。

#### ○コーディネーター

ありがとうございました。続いて、齋藤さんお願いします。

#### ○パネラー

フェリークという会社から参りました、齋藤美加と申します。

フェリークは、アーペという雑貨屋さんには皆さん御存知だと思うのですが、そこフランチャイズ契約を結んでいる会社で、美容室、ネイル、エステなどを展開しております。私はそこで美容師として働いております。当社はパートでも働きやすい環境を目指しているのがオーナーの意向で、結構融通も利いて、今勤めて1年半くらいなのですが、とても働きやすいと感じております。いろんな要望を聞いてもらえております。

私自身は8歳の子どもがおり、5年前に水戸市に引っ越してきました。年度途中だったので諦めつつも保育所の申請をしたところ絶望的な答えて、当時勤めていたひたちなか市の職場近くの認可外保育所に入れました。いずれは水戸の認可保育園に移れたら良いとは思っていたのですが、子どもも徐々に保育園に慣れてきて、このまま卒園までお世話になる方が良いのかなかなり悩んだ末、そちらで卒園しました。学童も結局、学校の学童は受入れが少なく入らず、民間の学童にお願いしたのですが、それを探すのも年度末で仕事も忙しい中探さなくてはならないという大変な思いをしたのがありました。

#### ○パネラー

今日はこのような機会に呼んでいただきまして、大変ありがとうございます。

私どもの茨城新聞社というのは、創刊126周年を迎える会社でございまして、この頃女性社員が増えて来ていまして、フルタイムや正社員で子どもを育てながら、という社員が何人か出てきています。新聞記事を持って来てお配りしたのですが、先月、女性が活躍する優良企業の認定「えるぼし」というのを取得いたしました。女性が働きやすい労働環境を作るというのを会社として取り組んでおります。全国の新聞協会という、全国でいろいろな新聞が加盟している会があるので、その中でも初めてのケースだそうです。全国的には規模の小さい会社ですが、こういうことで先駆けることができ嬉しいと思っております。あと社内ではいろいろとこういう（啓発の）パンフレットを作りまして、子育ての応援

をするような取組がなされております。

そして私も、子どもを育てております。しかし私の場合は、子どもが重度の知的障害を持っておりまして、普通のケースと比べると、大変なことがいろいろありました。子どもは特別支援学校に小中高と通っていたのですけれど、その中で、フルタイムで正社員として働いている人を見ますと、重度のお子さんを持っているお母さんでは、ほとんどいなくて私くらいだったのです。どうしてこんな働き続けられたのだろう、逆にまれなケースなのかと思いました。考えてみるに、家族が夫や実母を中心として、みんなで協力してきた環境があったし、会社も勤務地や勤務時間で配慮してくれて、意向調査で毎年、子どもの施設の送迎があるので5時で終わる所を希望し、それがずっと叶えられていましたので、そういうことで会社の理解もありました。行政の福祉サービスも利用できたのでなんとかやってこられたのですが、約20年その生活を続けておりますので、あっという間だったような気もするけれど、最初の頃は無我夢中でした。子どもの障害が分かった時、まず何処に何を相談したら良いのか全然分からなかった。それに会社勤めをしておりますと、ママ友的な人もなかなかできづらいです。その中で、普通のお子さんをお持ちだったならば、学生時代の同級生を頼ってとかあるけれど、周りにそういう子どもがいないのです。そういう場合まず、誰に相談したらいいの、というところが大変で、水戸市の障害福祉課などにいろいろと御相談して、子どもの学童とか、いろいろなことの手続きはしたのですけれど。やはり最初に分かった時は、ショックが大きくて、何から手をつけて良いか分からない。その時に、何処かの窓口で全部教えてくれるといった所があると、すごく良いと思いました。やはりそういう情報をいただくのも、そういう心境では結構大変で、一番途方に暮れていた時期でした。その時に市役所にもいろいろと教えていただいて、いろいろな行政の手続きがあるのだと思って、行政の手続きも最初にどういうふうにするのかといったら、まず情報をいただいてから、その後その書類を書きます。書いてからまた出しに行きます。フルタイムで働くと、なかなか休みが取りづらいのです。だから、何度も何度も休みを取って手続きに行くのは大変なことなのです。なので、なるべく回数を少なくして行政の手続きができるよう、これは何課、何課と課で縦割りではなくて、包括的に支援していただけると、働いている身としては、スムーズに休みを有効に使いながら対応できるというのがありました。

そんなこんなで、今子どもは、特別支援学校の高等部を卒業しまして、社会人になって福祉施設に日中通って、その後は日中一時支援というのを利用しているのですが、やはりそれも、夕方6時までということで、私は5時に仕事を終わりにして、車で急いで駆けつけて行って、時間までに子どもを迎えに行く、なかなか気が抜けない状態なのです。それをずっと自分が退職するまで、この気の抜けない状態が続くのかと思うと途方に暮れているのですが、あと10年少し頑張れば、それが終わるのかと思っているのですが。これから障害のある子どもを育てるお母さんで、フルタイムを目指している方がいるとすれば、そういう方が、私のような思いをなるべくしないで、働いていけるような行政の対応というのを考えていただけるとありがたいと今回思いまして、意見を述べさせていただきます。

## ○パネラー

こんにちは、水戸市の幼稚園から参りました白井りえと申します。今日はこのような会に参加させていただきまして、ありがとうございます。

私は公立の幼稚園に勤めているのですが、年少組の担任をしています。今は臨時職員という立場です。産休の先生がいらっしゃいまして、その先生の代わりに勤務しております。20年ほど幼稚園で正職員として勤務しておりましたが、6年前程に私自身が病気をいたしまして、それを機に退職しました。その時はずっと退職まで勤められるのかと思っていたのですが、手術とかりハビリとかさせていただいたのですけど、子どもが保育園の年長でしたので、母としては子どものために、皆さんそうなのですが、生きるしかないということで退職をし、そのあとパート的な感じで保育にずっと携わってきました。去年、先生方からお話をいただいて、今また幼稚園に勤務しているというあたりです。

今日は、今まで20年ほど正職員でいて、今回はまた1年程で、この同じような立場に結局は戻ってしまったということになるのですね。とても大きな差がたくさんあることに、これはやはり、実際に働いて見て分かることで、そのあたりをお伝えできればと思います。また職員がだいたい公立の幼稚園は4名なのですが、園長は小学校の校長で兼務です。ですので、ほとんどおりません。あとの3名が、教頭は職員室を守るといとか電話とか来客等があるので、とても保育に入るのは難しいです。2人が年少と年長と担任をしているのですが、今日は年長の先生が1日出張だったのです。そうすると教頭が代わりに担任をしてくださるのですね。そうすると私も本当に申し訳ない。今日は遅れてしまったのですけれど、1時半までの保育で教頭にどちらのクラスも見ていただかなくてはならない。園児は現在21名です。子どもが少なくなっているのですけれど、21名でも一つの園は園なので、子どもたちのために守っていかなくてはいけないという、本当に先生方も身を削りながら努力しているあたりを、今日はお伝えできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## ○パネラー

日本政策金融公庫水戸支店国民生活事業から参りました滑川と申します。よろしく願いします。

公庫には平成19年から入庫しまして、御契約等の一般事務を今現在行っております。去年の12月より1年育休をいただきまして、明けて職場復帰をしました。現在子どもは1歳11か月となりまして、保育園に通わせながら育児と仕事を行っているような状況です。私の両親は横浜に住んでおりまして、義理の両親も常陸太田市の昔の水府村という結構山奥に住んでいるので、普段は夫と2人で子育てをしています。ただ夫も私も働いていますので、まだ子どもが小さいので、よく体調を崩したりして保育園から呼び出しが来たり、または預けられない日があったりするのですけれども、そういう時はどうしても、夫も私も仕事をしているので、基本は自分達で育てたいというのはあるのですけれども、義母の助けをお願いする時もあります。職場なのですけれども、フレックスタイム制というものが導入されておりまして、そちらを利用しておりまして、基本的に9時半から17時10分までの就労です。通常勤

務より40分遅い始業となっているのですけれども、たかが40分ではなく、本当にこの40分のありがたさというのが今、身にしみているところです。同僚や上司の方も、とても理解のある方々なので、私は仕事と育児が両立できているのかと思います。

本日、市長さんとお話できる行政懇談会に参加させていただきまして、ありがとうございます。私のように仕事と育児を両立している女性が今現在はとても多いと思うのですけれども、そのためには保育園が必要不可欠でとても重要だと思っています。保育園が少ないために保育園入園時をはじめ、その他の場面でもさまざまな悩みが今現在でもあります。入園時には保育活動を頑張りまして、私自身保育園入園決定するまでが本当に不安で、決まったという連絡をいただいた時は、涙が出るくらい喜んだことを今でも覚えております。本日はそのあたりのことを重点的にお話できたらと思っています。

#### ○コーディネーター

ありがとうございました。ここまで皆様方にお出でいただいた理由が分かっていたけたのではないかと思います。働いている人たちがワーク・ライフ・バランスをする上で、子どもの問題は避けて通れないし、介護の問題も避けて通れません。自分の病気とか親族の病気、親族の介護のほかに子どもの障害が重なったりすると、人一倍大変な経験をしたりする。また、1歳11か月で復帰したばかりで、待機児問題がいかに大変か、もし入れなかったらどんなに大変だったかという心理的ストレスがまだ生々しい方に来ていただいたほうがよろしいのではないかと思います。皆さんにお出でいただきました。この陣容、顔ぶれを整えるにあたっては、男女平等参画課の方が、自分たちが責められる立場になるかも知れないにも関わらず、一生懸命準備されて水戸市の行政をより良くするために、皆さんに来ていただいたということがございます。本当によく口説いて下さったと思っています。私の方からこういう方たちがいいのじゃないかと、企画段階でお願いしたのですけれども、私の企画意図をよく汲んでくださりまして、揃えてくださったと思いました。

それでは、早速ですけれども、ポイントごと、いくつかのテーマごとに、お話をいただきたいと思います。まずは、やはり子どもの問題です。水戸市のこれからの若い人たちが、水戸市をより良いまちにしていけるために、あるいは働き続けて子どももどんどん生まれる良い市をつくっていくために、また県都ということもございますので、県庁所在地でいろんな意味で恵まれている立場であるのと同時に県内自治体を引っ張っていく、そういう市であるということを期待されていることがございますので、その点で、県の子育て計画の中でも非常に課題になっている保育の問題からいきたいと思います。

まず、この中で待機児になった、あるいは無認可、要するに認可保育園を希望したけれど入れなかったという経験のある方いらっしゃいますでしょうか。待機しなくて良かったのですね。それでは、待機児にならなくて済んで、涙が出るくらい、すごくほっとしたのですね。もし、待機児になっていたらどうなったのでしょうか。

#### ○パネラー

会社の制度上、仕事復帰いつしますとあらかじめ言っておかなければならず、多くの場

合、4月が一番入りやすいので、4月から復帰しますということになります。毎月審査がありますが、審査が通って入るところがあるよって保育園に入れたから仕事復帰しますというのができない状況でした。

#### ○コーディネーター

1番期待できる時期で入れなかったら、あとはかなり絶望的な気分というところだったのだと思うのです。やはり量を確保するということは重要です。今、政策金融公庫さんはダイバーシティのマネジメントをされていて比較的良い事業体だと考えておりますけれども、そこでも大変なわけです。他のところではそこまで待ってくれないというところもありますし、復帰は決めた時期にしてねという感じです。産休育休は取れたとしても、決めた時期に戻って来てもらわないと困るという会社は少なくない。そこで入れないということになると、ちょっと困りますね。無認可保育園というのは高かったでしょうか。

#### ○パネラー

もう3歳だったのも、もっと小さい子よりは高くないですけども。1歳だと、6万円、7万円という設定でした。

#### ○コーディネーター

自己負担額、人によってずいぶん違うのですけれども、それでも無認可のほうが少し高いし、それに保育の質の問題もあるので、やはり皆さん認可を希望されることがあります。待機児をカウントする時にぜひ、本人が希望した保育所、通えるところに本人が希望を出して、アウトになったら待機児としてカウントするという形で、保育の量を整えることが必要です。空いているからといって、市内のどこでも通えるという訳ではありません。

#### ○パネラー

うちの場合特に、公共機関、バスなどで通勤するという決まりがあり、そうすると現状は車社会を前提にしているようですけど、本当に通わせるところが限られてくるのです。

#### ○コーディネーター

アンケートに、彼女がなんて書いてくれたかという、自分はバスで通勤しなくてはいけない、バスで通勤できる所に保育園がないと困るのだ、従って通勤手段も考慮して保育園の入所を決めて欲しいというぐらい具体的に書いてくれました。本当にどこでも選べる訳ではないということを理解することが必要ではないでしょうか。あそこ空いているから入ればいいじゃないかと思われても、そのためにバスを走らせてくれとは言えないし、あるいは子どもが待機児になるたびに、あるいはなるかもしれないことを理由に先に引っ越しをする、引っ越しして入れる保証があればまだいいのですけれども、入れる補償もないのに引っ越しというのはなかなか難しい訳です。実は私も遠距離通勤でしたので、妊娠した時点で近くに引っ越そうかと思ったのです。そしたら0歳児保育の枠が少ないってことが分かったのです。入れる補償はもちろんないと。そして、水戸市では枠が半分くらいしかなかったのでも、どちらも激戦なのだけれど、可能性が高いほうに住むべきだということで、不動産屋さん回りをしてほぼ決めていたのですけれども、それを諦めたということがあります。引っ越しをする

にあたっても、入れる補償は欲しいところがあります。今、千葉県の流山市で、「母になるなら、流山市」と保育を売りにしたのだけれど、そしたら、多くの人が入って来てしまっ、そのつもりで引っ越して来たのに、あてにしていたサービスを受けられないということが多く出てきています。皆の切実な思いというのが伝わって欲しい。重々御承知だとは思いますが、潜在的待機児のカウントの仕方については、県内非常に課題が多い。これは実質的にカウントしないと造っても足りないということになると思います。また、幼児教育や保育の料金について、無償化の方向へと今、政治的に動いている部分もありますので、その動き1つで、ますます足りなくなるという状況が生じると予測していただきたいと思っています。

それから、保育の量の問題はここで一旦おいて、病児のことを書かれた方がすごく多いのです。病児といっても、一番ひどくて付いていなければならない時はまだいいとしても、それほどでない病後児というか、親はそんなに長くは休めないし、しょっちゅうも休めないの、このへんだったら保育園で見てくれればいいというのを書いてらっしゃいます。そのあたり自分だと思われる方、何人もいらっしゃると思うのですけどいかがでしょう。病児、病後児保育のところで、申し訳ないと吉野さん、さっきおっしゃっていましたよね。

#### ○パネラー

これは私自身の経験でもあるのですけれど、38度、39度熱があるとか、発疹が出たばかりで、うなって本当につらそうという時に母親が付いてあげるということは、私は大事なんじゃないかと正直思っているのです。ただ、熱が下がったね、でもまだ少し鼻が出てるねとか、まだ今連れていくと周りの子たちにうつしてしまうかという時期に、サポートしてくれる所があると良いです。風邪をひいても、1日、2日ならこの子に向き合おう、大事にしてあげられると思うのですけど、長くなってくると、「お願い、もう本当にお願ひ(仕事に行かせて)」という。小さい子を育てているお母さんを見ていると、誰も責めないのですよ、皆分かっているから。だけど、おはようございます、昨日はすみませんでしたと言って出勤して来るときに、どこかで見てあげられないかというのがあります。

#### ○コーディネーター

この時期、子どもがしょっちゅう病気をしているのではないかと思いますのですけど。

これは、病児、病気の時の対応も今保育園、随分変わって来ているのではないかという気もするのですけれど、かつて37度とか37度5分になったら、すぐに呼び出しがかかって迎えに来てくださいと言われた時代もあると思うのですけど、最近もそうですか。

#### ○パネラー

私が通っている保育園は多分厳しいほうで、37度5分が基準ですけど、超えるとまず連絡が来て基本呼び出しですね。あと、発疹があつて前日に皮膚科に連れて行っているのですけれど、次の日も違うところに出たら、もう1回来てくださいと、結構呼び出しは小さい頃は多いというのは痛感しています。

#### ○コーディネーター

そのほか、病児で困ったこと、またはこうして対応して欲しいというのがあれば。また、こういうことができるのではないかという案もありますか。

#### ○パネラー

別室みたいな所で、保育をしてもらえると良いとは思いますが。

#### ○コーディネーター

小さな部屋でも別室保育が2つくらいあれば、良いですね。伝染性のもの、例えばアレルギー性結膜炎で子どもの体は全然元気なのだけでも、うつるから連れて行っちゃいけませんとなる訳です。よその子どもにうつしあって、どんどんそうなるのも困るのでというのでも分かるのですが、37度5分で全部呼び出しというのは、きつい。今そういう保育園ばかりじゃないはず。厳しい保育園をある程度、指導するという部分も必要ではないかと思っています。そうしなくても保育はできるはずなのですね。ちゃんとそうしない保育園が悪い保育園かという、ちゃんとそれで保育園を回して、働きやすくお子さんもすくすく育っている保育園もあるはずなのです。クラシックなスタイルの保育園は、1歳とか0歳で37度5分で杓子定規に全部呼び出したとかなりしんどいはず。私も子どもが保育園に入って3か月目に、発熱などで半分しか行けず欠席でした。残りの半分の内また半分が呼び出しなのです。もう悲鳴が上がるどころじゃない、それでついに頭にきてですね。大変申し訳ないのですが、今度お話にあがりたいたのですが、と言ったら、もうすでに職員会議で問題になっていて、子どもは確かに熱は少しあったかもしれないけれども、給食もできているのに御飯も食べさせずに、お父さんが背広で迎えに来てたと。要するに授業の直前に電話が掛かって来て家に連れ帰って、あの御飯食べさせるのかと職員会議で問題になっていたらしいのです。ひどすぎないかと、つまり少しひど過ぎることをしたのではないかってことは気になっている。もうすでに向こうは対応済だったのですが、それと同時にその時、園長先生から説明されたのは、「子どもの熱は上がりやすい、だけど一枚脱がせるだけでも、水を飲ませるだけでも、下がることはあるし、元気で食欲があればいいんだ」と言われたのです。それで単に熱だけでは判断しない。ただし、病院に連れて行きたいかもしれないから、37度5分を過ぎたら電話はする、様子を伝えるけれど、すぐ迎えに来いとは言いませんとおっしゃいました。そういう方針に変わっていったけれども、それが周知徹底されてなかったという説明で、ものすごく胸をなでおろしました。そのあとは、ほとんど呼ばれる機会はなかったです。電話は掛かって来たことはあるのですが、食べていますよ、元気なにこにこしていますという電話なのです。それで全然違いますよね。

#### ○パネラー

学級閉鎖がとても大変ですね。あれも急に。

#### ○コーディネーター

学級閉鎖の時、学童保育はないのですか。

#### ○パネラー

無くなると聞きました。その時は民間に預けていたので、対応してもらえたのですが。

午前中に何人か吐いたらそのクラスも午後学級閉鎖になって親が呼び出しなのです。全員迎えに来て連れて帰ってくれという。私の職業柄、予約でお客様を担当しているので、どうにもこうにも回らない時は義理の母が手助けしてくれるのでお願いしてということをしました。

#### ○コーディネーター

予約とか、仕事上どうしても休みづらいところって皆さんあると思います。確かに病気は急ではあるのだけれども、子どもは病気をするのが当たり前なので、その病気にある程度対応できる仕組みを作ることが必要です。そんなに大変な思いをせずにもできる可能性もある。要するに使い勝手とか運用の仕方とかで、良いところ、それをやっているところを見てもらって、モデル的に広げていく。こうやっても子どもは育つよ、伝染性ではないような形で、こういうふうになれば大丈夫だということを学んでもらう。安心してもらような仕組みというのも作れるのではないかと思います。

それから同時に、保育士さんが足りなくて保育園を造りたくてもできないというのが行政の悩みです。本当に御苦労されているのですけれども。そこで、白井さんにお尋ねしたいのですけれども、幼稚園や保育園の先生は今、幼稚園も預かり保育をやっているということもあると思うのですけど、資格を持ちながら働いていない方っていますよね。

#### ○パネラー

たくさんいると思います。

#### ○コーディネーター

たくさんいるのだそうです。それで、たくさんいる潜在的な保育士ですね、今、保育資格や幼稚園資格を持っているにも関わらず、その資格を役立てずにいる方がたくさんいる。そして、市は造りたくても造れないと。どうしたら保育士さんとかが、働いて下さるようになると思われますか。何か良いアイディアはないでしょうか。

#### ○パネラー

少し難しいのですが、やはり勤めたい世代が子育て世代になってしまうと思うのです。就職されて結婚とか出産とかで退職されても、また復帰したいという方々がたくさんいると思うのですけれど、やはり自分の子を預けながら他のお子さんを見るっていうあたりが本当に悩ましい。本当に先程の話ではないのですけれど、私も1歳3か月で子どもを預けた時に、本当はもっと早く帰れると思っていたのですけれど、帰りが遅くなってしまう、真っ暗な園で残っている子が息子ともう1人の2人で、その時に先生が、たまたま今日お友達の指を噛んじゃってと言われたのです。うちの息子が噛んでしまったみたいなのです。それで息子も夜暗いし私にも会えたので大泣きして、私も噛んじゃったのがショックで、駐車場まで泣きながら2人で帰ったというのがあるのです。なので、息子を泣かせながら何をやっているのだろーというのですごく悩みながらだと思うのです。そういうお母さん方が勤めるためには、時間的なことであつたり、わが子を預けられる場所であつたり、あとはやはり賃金だと思います。

## ○コーディネーター

いちばん時間が問題になる。それで先程、白井さんがお話くださったのが、少人数の保育園や幼稚園とかで働いている場合、代わり的人がいなくて休みづらいということがものすごく言われる。でも、おかしいと思いませんか。誰だって年次有給休暇とりますし、子どもが病気になるのは当たり前だし、子どもの入学式とか参観日に行きたい訳です。お父さんだってお母さんだって、その時、誰かが休んだら職場が回らないという組織は、これはマネジメントがおかしいのです。どうするかと言った時に、例えば市の幼稚園とかで、代替職員がある程度バッファとして持っていて、そういう方たちに、保育士さんたちが子どもの学校行事などで休んだところに入ってもら。その時に、幼稚園一つにつき1人毎回代替という訳にはいかないとしても、例えば近場のグループを組んでおいて、その中である程度、代替の方と子どもとを馴染みにして置くみたいなことをしておけば良いです。初めて行くって訳でもないで、頼むほうも頼みやすいというものもあると思うのです。サブを2人くらい持っていれば、たいてい大丈夫ではないかと。あとは、人を配置する時に同じ地域の方だけで組織を組んでしまうと学校行事が重なるのです。だから、職場が回らないというのがよくあるので、そのあたり学校の方も学校行事を隣の小学校と同じ日にやらないとか配慮が必要ですね。同じ日にやられてしまうと皆が休むという。それは保育園の先生だけでなく、民間の企業の方もすごく言われるし、看護師さんたちも言われるのです。病院も看護師さんが一斉に休まれると困ると。誰だってそうなのですよ。スーパーの経営者の方からも言われました。パートさんたちに当然のことながら休みをとって、子どもの学校とかに行ってもらいたいと思うけれども、一斉に皆が休むと困る。そこで、一斉に皆が休まないように学校を少し変えているということでした。近い学校で隣り合わせとか、けど同じ日に学校行事があるとどうしようもない。そういう工夫は、学校側というか行政側も、少し指導をしていくってことも必要があるという感じはします。

## ○パネラー

そういうので、市の方も考えて下さって、「例えば、遠足とか園外保育とかに行く時に、連れて行くのに大変なのでボランティアで行って下さる方がいます」と市の方から言っ下さいました。でもその方々が、退職された園長先生とか校長先生なのです。その立場の方が、「何かあったらお声を掛けてください遠足の付き添いで行きます」と声を掛けて下さっていて、この間、文書等が届いたのです。しかし現場としては、非常に頼みづらいです。退職された方にやっていただくことは、担任はとても難しいですから、荷物番とか男の子のトイレを連れて行って下さいとか、そういうことがこの3人の職員で回すのは難しく、でもそれをやって下さる方が退職された園長先生、校長先生となると、気遣いで大変になってしまうというのがあります。

## ○コーディネーター

元社長が来るみたいな感じなのでしょうか。それでは実際問題として、どういう方に代替職員として代わりに入ってもらうことが良いでしょうか。例えば、今は辞めているけれども

働けるというような方たちをデータベース化っていうのはできそうな気がしますか。

#### ○パネラー

そうですね。そういう方々に登録してもらって、若い方が来て下さる制度もあるようです。そうすると、やはり経験があつて資格があつたりすると、もう少し配慮ができるのではないかということなので、以前勤めていたとか、そういう方々がもしも分かればありがたいです。

#### ○コーディネーター

ただ、資格がないと一定の子どもとの関係の定員で代替にはなりえない部分がありますよね。有資格の人で働いていない人たちっている訳ですよね。元園長先生ばかりではないかと思うのですけど。

#### ○パネラー

市の方や若い方は、免許等はないようなのですが、補佐的な立場でということで来て下さっているようです。

#### ○コーディネーター

例えば、子育て中で辞めてしまったというような人たちとか、あるいはもう大きくなったけれど保育現場に復帰していないという方をリストアップして、まずは代替的なところで自分の子どもを預ける先が無かったとしたら、その時は確実に何らかの形で、代替で入る時にもどこか用意しておいてという手を打って、辞めた人でも保育の現場に代わりで何度か入っていると馴染むという部分はないでしょうか。

#### ○パネラー

幼稚園教諭の免許更新というのがあります。そうすると、皆さん切れて、そこが厳しいみたいなのです。

#### ○コーディネーター

免許の更新を、きちんとしてもらえるようにする必要がありますね。

#### ○高橋市長

一つよろしいですか。例えば、水戸市で保育士さんを募集してもパートや臨時職員でもなかなか来ていただけないのは御存知でしょうか。今の御意見のように代替的にスポットで来てくれる方に登録していただくことを、もし募集したら来てくれますかね。いわゆる代替としてスポット的に1日3時間とか2時間とか、あるいはこういう場合にだけ、お手伝いに来てくださいというのを登録していただいて、1時間単位でいくらのような形で作っていて、その時だけスポットお願いします。普通どおり嘱託員だと、とにかく応募が来ないのです。私が市長になってからかなり時給を上げさせてもらっているのです。パートの方もまだ少し足りないと思っているでしょうけれども、時給にして1,050円にまで上げさせてもらっています。もっと上げる必要性も出てくるのでしょうかけれども、それでも来てくれない。だけど、別な働き方、お手伝いという働き方だったら、潜在保育士の方に来ていただけますかね。どうでしょう、皆さんの周りの仲間の感覚からすると。

## ○パネラー

やはり皆さん子どもが好きでなられていると思うので、そういうふうなお手伝いということでしたら来ていただけたと思います。やはり子育て中なので、そういうのを検索する時は、賃金は皆さんチェックされますよね。だから、どこよりも、少しでも、という気持ちが、パート的なことでは大きいかなと思います。

## ○コーディネーター

40分短くなるだけでも、働きやすいとおっしゃったじゃないですか。それと同じことが保育園の先生とか幼稚園の先生にもあって、行事の時に休みやすいというだけでも売りになるのですよね。自分の子どもの成長を見られない職場なのか、ちゃんと自分の子どもの成長を見られる職場なのか。子どもの行事でどうしても休まなくてはいけない時に、休みたいと言えなくて退職したほうが気楽という職場だと、やっぱり人は手を挙げて復職してこない部分があるので、短時間でも良いとか、あるいは逆によく看護とか介護であるのですけれども、夜勤がある所で夜勤専門職というのを作って夜勤専任ですごく時給が高いのです。高いのだけでも、それを作ることによって他の人たちの夜勤回数がすごく減ることになるとか、あるいは夜勤免除の人たちを作ることができるということで、非常にシフト管理が楽になるということがある。ヴィオーラさんもアンケートに書いて下さったと思うのですけれども、1人パートの方を余計に作られたのですよね。それによって仕事の忙しい時であるとか、休みの方が出た時のバッファとして働き、仕事の回しが楽になったとおっしゃっていました。やはりキープして置く、いざというときに頼める状態を作らなくてはいけません。リストアップして、市場なのである程度、非正規だから安いという時間給で上げてこられたのだと思うのですけれども、それでも出てこないとしたら、いくらだったら出てくるかっていうことをやっぱり想定しないといけない。白井さん書いてらっしゃるのですけど、年収が3分の1になったと言われているのです。ほとんど同じ仕事、パートタイムジョブではありますが、でもそれでも本当に療養休暇から復帰して1か月で休みなくそのままパートになられて、能力が落ちた訳でもなく、それでいて年収が3分の1、処遇というのは書いてらっしゃって、3分の1よりもっと差がついている方もいらっしゃるかもしれません。水戸市さんが特別そうだということではなくて、一般的に保育の現場の賃金水準が、特に非正規の賃金水準が以前に比べてすごく下がりました。以前は正規雇用でほとんど雇用していたのを非正規化して、それが有資格者の単価と言えないような単価に価格が下がってしまったので、出てきにくいという部分がやっぱりあるかなと思います。資格の価値が下がり過ぎたという部分はあって、労働市場で調整されている。そういう部分があって、行政としても1人1時間とか1年間にいくら出すべきか、というのは悩ましい。出せるかというのものもあるし、出すべきだし出さないと人が来ない。すごくお困りだと思うのです。いろんな方たち、出て来ない有資格者の方たちを含めて、よく話を聞く必要があると思います。

## ○パネラー

私の友達、休職している幼稚園の先生ですとか、資格を持っている方が、例えば私の友達

は学童だったのですけれど、自分の子どもも入れてしまう。自分の子どもと一緒に働くとか、あとは資格を持っている方は、優先的に幼稚園、保育園に入れるとか。働き方も1日フルではなくて、午前中専門、午後専門という工夫も有効だと思います。うちでも、おしぼりを巻くお仕事が夕方5時から8時というパートもあるのです。正直最初は、5時から8時に仕事をしてくれるのかと思ったのですけれども、面接をするとたくさん来て下さるのです。その代わり少し時給はアップしている。そういった形で、休職している方を引っ張り出して来るのはいかがでしょうかと思いました。

### ○コーディネーター

ありがとうございます。フルでは働けないから辞めているという部分があるので、パートタイムジョブにして、ワーク・ライフ・バランスができることを確実に保障することによって安心して復帰してもらうということが出来るかもしれないし、シフトも組みやすくなるということもある。保育士の方のお子さんを優先的に保育園に入れるというのは、保育士のお子さん1人入れることによって、20人のお子さんが救われる、そういう事態が起きるので、そういうふうになって来ています。保育士のお子さんは、例えば、1歳、2歳でも入れるようにする、戻って来てくれればそれだけ他の子どもたちも保護者も助かるので、戻って来てくださいと辞めないように持っていつています。と同時に、何らかのそれをアピールすることが大事です。保育の資格を出している学校に、ロールモデルも含めてどんどん支援をしてもらったほうが良いですね。それから復職した人の話を聞く機会を作ってもらう。自分は復職して上手くやっていると、上手くやるためのシフト管理をやっている園長先生に、他の園長先生たちに話をしてもらう。シフト管理とかマネジメントが上手い下手はやはりあるし、こういう時にはどうしようもないと思っていることが、他の園では上手くいく訳だから、そのノウハウを広げてもらう機会があると良いと思います。

### ○高橋市長

本日、水戸市役所の採用試験の発表でした。保育士、幼稚園の先生も、数人、正職員として採用しています。水戸市の先生は、水戸市役所の職員と同じ給料です。基本的に市役所のいわゆる公務員としての給料なのです。それでも競争率が悪いのです。事務職は、茨大も含めて10倍以上来るのです。ところが、保育士、幼稚園の先生は、2倍強しか来ないのです。10人募集しても、20数人という倍程度くらいしか来ないのです。これは民間の幼稚園、保育所と違って給料がある程度厳密に、公務員の給与になりますので、なりたい人がいないのかなと思ったりもするのですけれど、いかがでしょう。

### ○パネラー

それは、幼児教育で短大・専門学校の幼児教育学はたくさんあるのです。水戸市の幼稚園、保育所の先生方は今とても高学歴になっているのです。ほとんどが4大卒なのです。私は常磐短大だったのですが、非常に難しいと思われます。今は小学校と交流、幼保小交流というのが主になっているので、幼稚園の先生も、小学校の免許・中学校の免許があると非常に良いということで、そうすると4大生なのです。短大ではそういう免許はないのです。そうす

ると採用の枠の中に入るのが非常に難しいと思われます。昔は短大卒の学生さんが非常に多かった、私たちの時は4大生なんてほとんどいなかったのですが、今は皆さん、茨大・筑波大など4大生なのですね、幼稚園を希望するという学生さんが。そうすると、短大卒であったり、専門学校であったりすると、なかなか水戸市の職員、水戸市の幼稚園、保育所の枠に入るのが非常に難しく。

#### ○コーディネーター

受けても通らないという意味ですか。

#### ○パネラー

ほぼ、短大卒はいないです。

#### ○高橋市長

だから応募が少ないのか。

#### ○鈴木幼児教育課長

幼稚園の先生と保育士さんということですが、平成28年度から、幼稚園・保育所と分けな  
いで、水戸市では採用試験を行っています。資格としては、幼稚園教員免許・保育士資格の  
両方を持っている人ということで、4大・短大という区別はつけていないはずなのですが。

#### ○高橋市長

なり手がいないということか。民間も募集していて、根本的になり手がいないのか。

#### ○コーディネーター

でも、2倍だったら自分たちで通りそうな人たちが受けている部分もあると思うのです。  
例えば、保育士はどこでも足りないので、受けて落とされるくらいなら、他の通るところを  
受けるということが考えられる。定員割れなら問題なのだと思いますが、2倍だ  
と十分に選べるはずですし、通る見込みがあるかどうかと考えるながら出願している数字じ  
ゃないかと思いました。募集をかけても枠が埋まらないというなら本当に問題で、そこをど  
うするかということに注力した方が良いでしょう。よくハローワークだと、ワンストップでキャリア  
サポートすると思うのですが、例えば有資格の人をリストアップして、1対1で顔を見  
ながら話を聞いて、どうやったら職場に復帰できるかをサポートします。その中で見込みが  
ありそうな人たちを選んで、どういう条件を整えたら戻れるかということを保育士たち向  
けにやるのが本当に必要になっている。行政的にもお困りだろうと思うのです。学校とも  
タイアップして資格を出している学校に卒業生のリストをもらうという形で、かなり切羽  
詰っていると思います。ぜひ頑張ってくださいと思います。

それでは続きまして介護の前に、障害児ということに限りませんが、重度の介助が  
必要である場合に、さまざまな窓口に手続きに行くことがございますし、また障害が重い高  
齢者であったとしても、重いがゆえに困るということを先程だいぶおっしゃってくださっ  
たので、具体的に提案すべき内容がありましたら、もう1回重なっても構わないのでおっし  
やっていただけますか。

#### ○パネラー

今回こういう機会をいただいたので思い切って発言しようと思ったのですが、障害を持った子どもを産み育てているというのは、社会に迷惑をかけているような気がして、なかなかこういう機会がなければ発言しない親って結構いると思うのです。今日は思い切って話したいと思いますけれども、だからなおさら、親が働いて母親も働いて税金を納めて社会に貢献していきたいという気持ちはあるのです。なので、フルタイムで働いて一生懸命仕事をして税金を納めてという感じです。ずっと続けていくとしたら、休みを取ることは難しいですね。フルタイムでお仕事をする、特にうちは中小企業で、代替要員も厳しいのでなるべく自分で仕事をみんなに迷惑をかけないようにして働いて、どうしても行政の手続きのために半日なり時間休を取って市役所に行く訳です。その時にまず、最初に情報収集のため窓口で相談に行ったりすることが多いのです。そしたら今度は、この書類を書いてまた提出、そうすると更に休みを取るようになってしまうので、そこで事前の情報収集を、市役所に行かなくても、例えば仕事が終わった後、役所が閉まった時間でも情報を収集したりして、有効に時間を活用して手続きができないかというところなのです。

#### ○コーディネーター

これは、前回の経営者のところの会でも出たと思うのですけれども、情報の提供の仕方を考えるということですよ。アンケートに書いて下さったのは、メールでの相談にも応じてほしい、申請も認めてくれないか、というようなこともありました。それで少なくとも情報に関しては、サイトできちんと取れるようにする。そして、様式ファイルも取れるというのが今は当たり前の時代ではないかと思うのです。様式ファイルを入手して書いてみて分からなかったら、電話でこの部分はどう書きますか、くらいはあると思うのだけれども、どういう情報があるのか分からない状態でもらいに行く。そして帰って来てよく見てみたら、また相談に行かなくてはいけない。相談に行ってようやく書類が家で書きあがって、もう1回行く。というのを、例えば、通常の場合だと1か所で済んでしまうのですが、欲しいことがいくつも分かっていると、その都度別々の場所に別々に相談に行って、それが3回セットで何回もあるということになってしまう。窓口で私は以前、保育園の申請書類を市役所まで取りに行かないといけないということで、驚いてそんなバカなことが世の中にあるのだろうか、一番上の子は20歳なのですから、20年前ですらそう思いました。申請書類などはクリック一つで入手可能であるべきです。

#### ○パネラー

例えば、市役所から郵送で来た書類は郵送で返却可ということなので、すごくありがたいと思うのですけれど、できればパソコンで入力できると楽なのです。結局私たち仕事でよくパソコンを使うものですから、いろんなものを手書きするのがなんだか苦手になってきまして、そういう対応の幅も広げていただけるとありがたいです。

#### ○コーディネーター

様式ファイルをダウンロードできれば、それにそのまま入力できると、PDFじゃなくてワードとかエクセルとかだとできるということですね。それで時間がすごく節約できるし、

どこでも入力できる。これはそんなに苦勞しなくても、すぐにでもできることも入っていると思いますし、メール相談も複雑な件は対面でということはもちろんあるでしょうけれども、簡単な案件に関してはスムーズに済んでしまうという、お互いに窓口で時間を使うよりは効率的な場合もあるので、そういうものはそれで処理してしまう。

#### ○パネラー

例えば電話で相談した時に、お返事をお電話で頂戴することがありますが、私仕事中は無理ですと言うと、仕事が終わった7時頃に職員さんからお電話いただくと私は仕事から帰って自分の時間でいるのにと、すごくとっても申し訳ない気持ちになるのです。それだけでなく社会に迷惑かけていると思うのに、またここで迷惑、お電話で手間をかけて本当に申し訳ない、メールで済むようなこともあるので、物事によって分けていただくと気持ち的に負担が軽くなります。

#### ○コーディネーター

市の職員の方の、ワーク・ライフ・バランスも気になります。今の言葉に「迷惑をかけている」という言葉が何回も出るじゃないですか。他の方も、子どもが病気の時に休むので「申し訳ない」というのを何度も言われました。それが皆の、大変だった時の気持ちだと思うのです。いつも申し訳ないごめんなさいと謝って、私はなんで子どもを産んだらこんなに毎日何回も何回も「ごめんなさい」と言っているのだろう、子どもを産むと「ごめんなさい」と言わなくちゃいけない立場に急になるのだと思ったことがあるのですけれど、やっぱりそれだと、少しつらいですね。確かに「ごめんなさい」なのだけれど「ごめんなさい」と言うよりも「ありがとう」ですむと良いです。「代わってください」と気楽に言えて、「ありがとう」と言えるような関係だったら良いけれど、本当に申し訳ないと思わなくてはいけないところというのは、やっぱりつらいし職場で働き続けることも難しい。そうすると税金が納められなくなってしまうという部分もある。女性が働くと成長戦略で可処分所得が上がって、と、よく書いてあるけれど、可処分所得が上がる前に名目所得が上がって、社会保険料がたくさん払えるのではないですか。そうすると例えば最近、非正規でも社会保険適応の人が増えたために中小企業健康保険である協会けんぽの収支のバランスが少し良くなったのです。ぜひ、あまり申し訳ないと思わなくて済むような、職場でも市役所の窓口でも、何とかして下さいと涙が出るほどの気持ちで、保育園の入所決定を待たなくていいぐらいになると良いと思います。申請もぜひ、そうなると良いと思っています。

#### ○高橋市長

情報政策課が来ていますが、そういうことはやろうとしたら簡単だと思う。要するにパソコンから書けるようにして送信すればいいし、そうなっているものもありますよね。

#### ○北條情報政策課長

技術的にはある程度できますが、あとは福祉的な立場で考えた時に、もしかすると1回、人と会うというのが大切だということがあるかも知れないので、そのところの兼ね合いというのを考えつつ、サービス提供を考える必要があるかと思います。技術的にはできる

と思います。

#### ○高橋市長

個人情報なので、間違っ送ったりしてはまずいね。

#### ○北條情報政策課長

そういうこともあります。

#### ○コーディネーター

でも、技術的に様式ファイルをいただくということは簡単ですよ。まずその段階で1回減らせるということは、やはり意味がある。相談は相談として、相談に行くレベルが上がるということはあると思う。事前に予習した上で行けるので。あと他の方も書かれています。が、介護というのは先が見えないから孤立しやすいので、そういう方たちが悩みを抱え込んでしまって心理的にダウンしたり仕事を辞めなくてはいけないのではないかと、社会的圧力を感じてフルタイムの仕事を辞めてしまっているという場合もある。ショックでもあるし、そういう子どもを持ったらお母さんが面倒を見るのが当たり前じゃないかというような社会的な圧力を感じて辞めている場合もあるということでした。

#### ○パネラー

皆さん、声に出しては言わないけれど、お母さんなんだもん、やっぱり子どものために頑張ったらいんじゃないという圧を感じました。特に、特別支援学校は療育に熱心なお母様もいて、自分だけ学校行事が少なくなってしまうたり、そういう時にお母さん失格とか社会の圧みたいのを感じるのですけれど、母親ばかり感じている状況というのを変えて欲しいなというのはあるのです。結局、社会の圧というのは目に見えないのですけれど、だから解決するのどうやって解決して良いか具体的なものは無いのですが、誰かが行動することとかいろんなことで変わっていくのではないかと。政策的にも遠慮しないで、自分で抱え込まないで気楽に相談して下さいというふうなことを「こういう窓口がありますよ」ということを教えていただいたりするだけでも、変わるのではないかと思います。特に私アンケートの最後のところに、これから働く女性へ何かアドバイスありますかってところに、1人で抱え込まないで欲しい男女いうわけではありませんが、女性のほうがやはり抱え込む問題って結構まだ多いと思うのです。その抱え込まないようにするために、行政で何かしていただけることがあればいいと思っています。

#### ○コーディネーター

それで思ったのですけれども、例えば障害をお持ちのお母さんやお父さんたちで、子どもが少し大きくなっていらっしゃる方が、はじめて生まれた子どもが障害を持っていてショックを受けているお母さんたちやお父さんたちに、情報として自分たちはこうだったというロールモデル集みたいなものを作って提供する。それは、別に立派な冊子である必要はなくて、ただその方たちが子どもさんとどんなふうに過ごしているかという、そして大変な時もあったけれども、こうやって乗り越えられているという、そういう絵っていうか文章で良いのですけれども、見せてあげられるものがあれば。ショックで大変だという時期に、でも

いつかこうなれるのかな、或いはもう辞めなくてはと頭が真っ暗になっている時に、こうやって続けていらっしゃる方もいるのだと、ポジティブにだったら私もやれるかもというような、選択肢をいくつか持てるのではないかと思うのですね。このアイディアはそういうふうにいかせるかなと。

#### ○パネラー

やはり最初、周りにそういう状況の方がいないので、インターネットを検索してみました。同じ状態の子の、子育ての様子や将来の様子というのを見たのですけれども、やはりそれだと何となく隔たりがあるというか、遠い人の情報のような感じがしました。水戸市にいる人、水戸市にいる先輩みたいな形での情報があると、もっと身近で勇気づけられ方が違うと思います。

#### ○高橋市長

団体に参加してみるというのは、皆さんいかがなのですか。私、市障連の人たちとよく連携をとって情報交換会を行いますが、新しい方が入ってこられないので構成員が少なくなって、会の運営もままならないとか、新しい方と情報交換できなくて、役員の方々年齢が皆さん80歳くらいの人が多いと伺っています。

#### ○パネラー

意識の高い方々で、自分とはレベルが違うのではないかと、尻込みしてしまうところがあります。

#### ○高橋市長

そういうところが、なかなか難しい理由なのですね。

#### ○コーディネーター

そういう活動というのではなく、日常の生活でワーク・ライフ・バランスをしているという方のそういうモデル集を作って、そしてその方たちの中で、相談に応じますという方をリストアップしてみる。そうすると、もしかしたら話し相手になれますと、話し相手とは相談に応じられるってことなのですね。経験者の方は自分も苦勞しているから、空いている時間に家に来てくれるとか、都合のつくところに時間を設定してくれれば、会ってくれるはずなのです。同じ苦勞をこれからしそうな方たちに対しては、皆温かく対応して下さると思うので、してもいいよという方たちをリストアップされるとそれだけでも良いのではないのでしょうか。体験者の持っている言葉の強さは、すごく大きいので、また、(市の相談窓口などの)相談に対応する方たちとはまた別の、利用者サイドの目線で話を聞くこともできるから、ぜひそういうのがあっても良いかと思いました。

それから何人かのアンケートで、介護のところもあったのですが、保育のところですね、子どもが大きくなって来てからの方が働く時間を短くしなければならないという、学童保育の時間で公立が、18時とか18時半だったということで書かれたのですが、今でも学童保育はそうなのですか。たいてい今保育園は19時ぐらい、公立でもなっているかと思うのですが、障害のあるお子さんの場合。

## ○パネラー

うちはまず福祉施設の利用を15時までしたら、その後同じ施設で預かっていただいているのですが、そこが18時までなので、まず施設を選ぶのにかなり入念に、職場から何分で行けるというのを計算して、障害者の学童みたいところからその系列の施設にお願いして、そこから施設に入るといふ活動をしまして、そういうふうにしてやっと入れたのですけれど、それでも18時までなので17時に急いで仕事を終わらせて車で行くので、本当に心が休まらない状態が続いています。

## ○コーディネーター

そうですね、その1時間がものすごく大きい、1時間早いだけで全然違う訳ですから。学童保育とか施設の最後の時間が何時かってすごく切実な問題です。そして19時になると皆の中に余裕ができるのです。つまり、仕事がジャストで終わらなくてもなんとかなるし、ジャストで終わって帰る時もあるのですけれども、終わらない時に私だけ帰りますって訳にいかない職場って市の職員の方も大変なんじゃないかと推察するので、そういう状態が起きた時に19時だとかなりカバーできる人たちは出て来るはずなのです。職場の方では子どもが小学校に上がったなら、保育園の時より働けるようになるはずだと皆思われるのです。けれど保育園の時は19時で、小学校に上がったならお兄ちゃんの学童が18時までなので、保育園は19時までだけでも、働く時間は短くなり残業ができなくなりましたとなる。これを職場に理解してもらうのは本当に難しいし、理解しても理解はするけど、腹が立つというのが職場の管理職の感覚。腹を立ててもしょうがないのだけれど、その人に腹を立てている訳では無いのだけれど、何か苛立たしいというか、子どもは大きくなって来ているのに、何でこの人そろそろ戦力化するはずだったのに、小学校に上がった途端にダメなのみたいな感じになってしまう。そこは配慮が少しいるのかと思います。おそらく経験者の意見というのは、この間話が出たのは、近居の御親族が、同居近居が水戸市の場合多いので、その方たちの親御さんたちは17時までいなくて、17時、16時になるとほとんど帰ってしまっていて、自分の子どもだけが残っているという状態が地域によってはかなりあるらしい。そのあたりの配慮は必要ということがあったのです。そうすると19時までの所をつくるか、どういう形でどこにするかが、次の問題となります。とにかく声があがっているニーズがあるということは、理解していただきたいということですね。

あと皆さんからいただいたものの中で、学童保育のことと介護のことで、さっきの介護者が孤独にならずに、仕事を辞めることなく介護ができるという、やはり環境とシステムと場の構築が必要と、吉野さんかな書いて下さったのです。インフラ整備も介護も含めて、高齢者の介護問題はこれからどんどん出てきます。近居の親族は、子育てをしている時には戦力として非常にありがたいのですけれども、逆に要介護親族ができた時には、今度は非常にマイナスに働くということがあります。だけどそのために、子どもが小さい時に続けられた人たちが介護の親族が近くにいるとか同居していることによって、辞めなくてはいけない社会では無くしていくことも、これから特に必要になります。社会のニーズとしてはこれから

どんどん大きくなっていきます。地域のいろんな懇談会では今、介護の話がすごく出て、インフラ整備のことが皆さん心配だと言われますね。

最後に1分間メッセージで、皆さんからお話をいただきたいと思います。何か言い残したいこと、市長さんにこの距離感でお伝えできる貴重な機会を活かしていただきたいと思います。どなたからでもどうぞ。

#### ○パネラー

今、人手不足ということが大きく騒がれています。当社も同様に人手不足があるのですが、その中で今すごく感じているのが、もちろん賃金が高ければ高いほど良いというのもそうなのですが、同時にやはり休みに関して、今の人たちは求めているのだということを痛感しています。給料が高ければ来るかというところではない。当社の方でも有給を全員100%取ろうと頑張ろうとしている部分というのはあるのですが、そのためには人を入れていかないと回せない、常にこのスパイラルの中にあるので、そういう形で有給ですとかエンジョイ休暇ですとかを取れるサポートをしていただけるとありがたいです。そういった会社には見返りがあるとか、そのために人を入れなさいという、もう1人2人増やしなさいというような形で、そういった面にしていくと、もう少し皆も観光に行ったりしてお金も動くのかと思いながらお願いしたいと思います。以上です。

#### ○パネラー

私はやはり子どもに関してなのですけども、学童や保育園はやはり正社員で働いている方が優先的に入れてもらえると思うのです。でも週3回だけお願いして、ここだけ働きたいですという声もあるということをお伝えしたいです。大きくなって4年生からがネックという周りの声もあります。結局学童に入れても4年生まででそこから先が無いと言って、小学校卒業までは働かないでおこうという声も友達では出ているので、6年生まではなんとか整備してもらいたいというのを伝えたいと思います。

#### ○パネラー

今日は思い切って、いつもなるべく社会の迷惑だと思いながら縮こまっていることが多かったのですけれども、このような機会に発言できて、本当に嬉しかったです。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

#### ○パネラー

今日はどうもありがとうございました。本当に言いたいことを言ってしまって申し訳ありません。幼稚園の先生方も皆頑張っています。代替の先生ですとか、本当に公立は少人数になって来てしまって、それでも1つの大きい施設を3人で見なければいけないというあたりを少し考えていただけたらと思います。今日はどうもありがとうございました。

#### ○パネラー

最初から最後まで保育園の話ばかりで、申し訳ないのですけれども、個人的に水戸市に元々住み慣れていなかったもので、認可と無認可の表というのがなくて、地図上でここに保育園がありますという表が無かったのです。そうすると、一つひとつ調べて何町と書いてある

のですけれども、まず何町が分からないというところから混乱したことがあったので、できるなら無認可と認可どちらも合わせた地図があるとすごく良かったです。それから保育園利用調整会議日があり、入れるかの結果が出る日が会議日と言われているのですけれども、その日に私の場合、結果が出なかったのです。その日に出ないとこちらも会社に伝えられないので、その日に出るように、例えば1週間前に会議日を設けていただき、私たちに伝える日はこの日だと言ってくれる方が、私たちは動きやすいと思いました。

### ○コーディネーター

ありがとうございます。皆様言いたいことを言えましたでしょうか。よく我慢強く聞いて下さったと思います。今日は、水戸市が良い行政をしているという話に2時間の時間を取るという場ではなく、これからの課題としてこういうことをして欲しいということを市長さんにお伝えする場と心得まして、皆さんが言いたいことを言える場だったと理解していただければと思います。皆水戸市に住んでいて、あるいは勤めていて良かったと思えるように、あるいは今も思っていると思うのですけれども、水戸市がより良いまちになるようにというお気持ちで伝えて下さったと思います。

やはり子どもを育てる、介護をするという、誰かをケアをするということは、自分の人生の制約条件には片方であるけど、すごく豊かにもしてくれと思うのです。私も子育てをして見てもう1人いても良かったかと、5人家族で育って来たので1人足りないと思っているのですけれども、35歳過ぎて産みだすと3人目は体力的にきついのです。いつでも何月でも、産みたい時に産める。4月入所に合わせて、この時だったら入れるから、何月に産まなくてはいけないなんて思わなくて済むようにする。社会の圧力ではなくて自分の気持ちとして産めるようにしたいと思ったりしました。

そして社会の圧力という点では、先ほど言われたように大変な思いをしている人たちというのは、自分がもう少しケアに直接携わるべきではないか、もう少し犠牲的な形でやるべきではないかという自分自身が思い、あるいは周りからそういう目で見られる。そういうことが圧力になりやすいのだということを感じました。これから高齢者介護の点で出てくると思います。けれども社会的にみれば労働力人口は減少します。日本の社会がまちが、コミュニティとして機能していくためにも、やはりマンパワーって必要で、皆が持てる能力を活かして、それぞれの場で活躍し、また子どもや高齢者でケアが必要な人たちは、その能力を持っている方たちが十分にケアをして下さって、幸せに親が働いているから、子どもが不幸とか両親が介護状態になった時に、娘息子が働いているからその親たちは、不幸だということではないようなインフラを整えていくと、日本という国全体としても強くなっていくのではないのでしょうか。人口減少時代を耐え抜くために、スピード感を持ってそういう準備をしておく必要があると思いました。その時に、女性のマンパワーを確保するという時に、特に出てくるのはお金だけではない、休みということが1つのキーワードになるというのが今日出てきたと思います。特に休ませて下さいというのが、皆ストレスな訳です。残業ができませんというのが皆ストレスだということを考えると、職場がフレキシブルである、有給

休暇を使える、半日でも3時間でも1時間単位でも使えるそういう仕組みを作って、そして賃金だけではなくて休みが取れるということを武器に職場を作っていくということが、小さい所ほど大切になると思うのです。大きい所は、給料とか福利厚生制度で勝負ができて、求人することができるのですけれども、小さい所は、そういうブランド力とか福利厚生とかが無いとしたら、賃金で勝負するのが難しい時には、働き続け易さは、何ものにも代えがたいと思っている人たちは結構たくさんいると思っているので、ぜひそういう人たちの気持ちに応えられるような職場づくりを、マネジメントに啓発してほしい。市の行政はサポーターとしてインフラ整備に向けて、そういう視点をトップに植え付けてほしい、保育園の先生たちにも。保育園とか幼稚園の先生って、子どものためにいいという視点がものすごく強いのです。そうすると親に対しての要求がすごく強くなる人がいるのです。親はその要求に応えられないという場合がある。親を責めること親に期待することが、かえって子どもに良くないという場合が出てくる。親を楽にしてあげる、子どもは自分たちでみるから親はもう少し気楽にきなさいというふうな視点が、これからの時代には必要だと思います。それをトップマネジメントの方々に共有してもらえると良いと感じたりします。

私の方の、まとめという程ではありませんけれども、今日は保育と介護を中心に皆さんが常々思ってたことをお話いただきました。職場でこういうふうにやっている、そんなに大きな職場ではないけれども、女性活躍の認定で三つ星を取った、あるいは働き方改革で生き生きと働いていて、障害者も女性もたくさん働いていますという職場の方も来て下さって、社会の変化を感じることができました。その変化の中でも市に対しての要望というのは皆抱えていて、それはそれは切実な願いなのだと感じました。

ぜひ今日の行政懇談会が意味のあるものになるように、市長をはじめ行政職員の方々には頑張っていたきたいと思っています。それでは最後に市長からお言葉をいただきます。

## ○高橋市長

2時間にわたり皆様お疲れ様でした。また、清山先生には、見事なコーディネートを本当にありがとうございます。そしていろいろと御教授いただき、最後にコメントをいただきまして、また私の話す時間を残していただきまして、本当にありがとうございます。まさに耳の痛い話であるのですけれども、当然の話でありますので、しっかり今日は担当課も来ておりますので、私たちもできるだけ行政に反映をさせるように頑張っていきたいと思っています。

今日はまず、保育のお話をいただきました。お恥ずかしながら未だに待機児童を抱えている自治体が、水戸市そして清山先生御在住のつくば市です。私が就任してから6年間で1,500人以上の定数を増やしてきました。それでも需要が掘り起こされるということで、子どもがたくさんいて働く女性が多いということはあるがたいことなのですから、それに対して追いついていないという現状があります。その「追いついていない」というのが、意外と量ではなくて、マッチングだと思うのです。例えば報告を受けたら、今年度は水戸市の持っている全体の定数よりも申込者のほうが少ない訳で、単純に考えれば全員入れるの

です。けれども先生が先程おっしゃった、いろんなマッチングで、例えば通勤の途中に保育所が無いとか、それから保育士が足りないから定員の受け入れができない保育所がある。量は何とかしたのですけれども、なかなかマッチングしない。あるいは保育所を造ればいいということではなくて、保育士をきちんと確保しなければならないということです。保育士を確保するためにどうしたら良いかということで、奨励金みたいなものもやってみたけれども、特効薬にはなっていないと思っています。それからこの間、保育所の設置の募集も南北に分けてみました。最近募集をすると、南ばかりが多くて特に平須地区が多くできていたのです。そうすると例えば、中心市街地とかにできない。ですから待機児童の多いところを、学区を指定して募集をして見ました。1園は来たのですけれども、もう1園はまた再募集をすることになったのです。実は、保育園も昔はやりたい方がたくさんいたのです。競争のごとくいたのですけれども、今回は2園募集をしているのに1園しか応募がなかった。やはり保育士の確保ができなくて、事業者も始めたくても始められないのだと思っています。やはりきめ細かい学区の考え方とか、そういうことをしっかり足りない所にどういうふうに手当していくかをきちんとマッチングしていかなければならないと思っています。それから特に、中心市街地の中に保育所が少ないというふうに言われるのです。それは土地の問題があって。やはり国の方のいろんな基準で特区でも取れば別ですけれども、園庭が何㎡で建物が何㎡で、例えば東京の方は隣に公園があれば、その公園を園庭という形でいいですよということで設置できたりするのですけれども、まだ水戸市の方は国の決まりを守らなくてはならないのです。建物はこれくらい、園庭はこれくらいにしないでダメですよと、そうすると中心市街地でやってくれる人なんていないのです。高い土地を買ってやってくれる人はいない。例えばそういうところも、こういう私たちのように、恒常的に待機児童を抱えているような市町村には特区的に考えていただいて、空きビルだとか空き店舗だとか、そういうのも活用させていただきながら、そういう認可保育所というのも建てさせていただけるような、もちろんその安全性だとかそういうのもしっかり考えていかなければならないのですけれども、地域と保育所の数ばかりではなく立地です。それがマッチングできるような方策を取っていかなければならないと思っています。併せてそこで働く人材を、給与面なのか休みの面なのか、そういったバックアップ体制をしっかりと整える。いわゆる補助員等の。そういうことで保育士が働きやすいような環境にすれば、潜在的な保育士さんも復活をしていただける、そういうようないろいろなことをミックスさせて、あわせ技でまずは待機児童を解消しなければならないと思っています。

それと併せて、これから多様化ですので、ただ単に今までどおり単純にお預かりすればいいという訳ではなくて、先程言ったように病児、病後児、これも今募集をして今年もやって下さるところ、病院系の保育所でやってくれる所があるのですけれども。あとは、ファミリーサポートセンター等も活用させていただきながら、そちらの方にも御協力いただいて、病児、病後児あるいは急な預かりですよね、お葬式ができたとか親の介護だとか、急な預かりでもファミリーサポートセンターであるとか、子育て支援センターの方でやらせていただ

いているとか、そういうのも御活用をいただくように、もう少し機能を充実させていきたいと思っています。特に先程言った学童の問題もあるのですけれども、とりあえず今一生懸命やっているところが、6年生まで預かろうということで、2019年度までには6年生まで預かれるようにインフラ整備をいたします。水戸市の場合に、全ての小学校で希望者は6年生まで預かれるというふうに、2019年度を目標に今やっています。ただ問題は、預かる時間なのですね、先程先生がおっしゃった7時は当たり前なのです。もう常識なのです。今のところ水戸市は6時で、モデル的に6時半までやっているのですけれども、ある意味6時半が当たり前でモデル的に7時までやる、或いは7時が当たり前でモデル的に7時半までやる。おそらくそこがニーズなのだと思うのです。そこはうちの予算の問題と人をどう調達していくか、その時間働き手を探さなくてはならないものですから、支援員も誰でもいいという訳にはいかない。保育士さんとか幼稚園の先生とか資格を持っていないまでも、それなりのノウハウを持つ人でないとやはり危ないので。子どもという命を預かる、ただ単にだらだら過ごさせればいいものではなくて教育的見地を持って、放課後保護者が迎えに来るまでの時間を過ごさせると、宿題をみてあげるとか何か体験させたりとかっていう、そういう中身の濃い活動もしていかなければならない。誰でもいいという訳にはいきませんから、そういった開放学級の支援員の確保というものも図っていかなければならないと思っています。ハードな部分というのは2019年度までには、これは予算化すればある意味簡単にプレハブだとか専用棟を造ることができるのですけれども、一番は支援員の確保。小学校6年生まで、そして7時まで預かれるという、その支援員を確保するのが非常に難しいという状況なのです。ただ、やはり最終的には6年生まで預かって、そして7時は当たり前にするというようなことはやっていかないとニーズには応えられないと思っておりますので。もちろん学童ばかりでなく障害者福祉関係の施設等についても、今の働き方を考えると7時までには預かれるような形を全てにおいてサポートしていく体制、環境を整えていかなければならないというふうに思っております。

また、介護等につきましては、こういうサービスがありますという情報をしっかり提供しなければならぬと思っています。特養とかデイサービスとか、デイサービスも4時までなのですけれども、お泊りデイサービスというのがあります、そのまま施設で夜まで過ごすことができます。介護は利用しようと思えばサービスはあります。今、市内8か所に高齢者支援センターというのを造らせていただいて、そこでその人に合ったサービスが受けられるような相談体制はできています。これは民間の社会福祉法人に委託をしていますが、評判が良くて、助かったという声をいただいております。そういう機能をしっかり地域のほうでPRをして、こういうのがありますから御利用下さいということを行っていかなければならない。できれば中学校区ごとの16か所に増やせば本当は良いと思っています。そしてそこで高齢者ばかりではなくて、子育ての相談もできるような、そういう機能も持っていければ良いということが、私のある意味夢でもありますので、そのような政策もしっかりやっていきたいと思っています。

いずれにいたしましても、情報を水戸市がしっかり提供して皆さんに御利用いただくということが大切だと思います。皆様からの要望はしっかり受け止めさせていただきますので、逆に市民の皆様が行政に対して線を引かないようにしていただきたいと思っています。先日も水戸市へ引っ越されて来た方なのですけれども、水戸市のどこかに遊びに行こうと思っているのだけれど、観光パンフレットが何にもないですねと言われるのです。何にもない訳ではないのです。中国語から英語からありとあらゆるパンフレットを出しておりますので、皆さんで一步を踏み出していただいて、情報は取っていただきたい。そして、私たち行政が、それ以上に、皆様が行動を起こさなくても自分のところに情報が舞い降りてくるには、いったいどういう方法があるのだろうか、子育てにしても介護にしてもですね。私たちの情報提供体制の中で考えていかなければならない、そういう責任を感じつつ、ぜひ皆さまも、あまり行政って敷居が高いとか無愛想ではないとか、そんなことはありませんので、ぜひどんどん来てください。水戸市も、しっかりと情報提供体制を整えていきたいと思っております。

もう少しお話ししたいこともあるのですけれども、時間が来てしまいましたので。本日の水戸市の課題は行革と現場といろいろすり合わせをさせていただきたいと思っております。本日は、皆様方に貴重な御意見をいただきましたこと心から感謝申し上げて清山先生にマイクを返したいと思います。ありがとうございました。

#### ○コーディネーター

それでは、市長様の決意表明を受けましたところで、今後に期待したいと思います。今日の行政懇談会の私の進行部分はこれで終了です。事務局のほうで最後に締めがおりかもしれませんので、バトンをお返ししたいと思います。

#### ○石塚男女平等参画課長

本日は、長いお時間ありがとうございました。皆様からいただいた大切な御意見は、無駄にすることなく、行政に反映させていきたいと思っています。2日間にわたり、行政と市民の皆様とを繋いでいただいた清山先生ありがとうございました。皆様ありがとうございました。

平成29年度

# 行政懇談会記録書

～「働く女性」と市長との懇談会～

平成30年8月発行

(編集・発行)

水戸市市民協働部男女平等参画課

水戸市五軒町1-2-12 みと文化交流プラザ5階

TEL : 029-226-3161